

訓解

官令類聚

沿革附

第五號

明 治 十 一 年 五 月											
警 達	開	開 達	工 達	海 達	陸 達	大	大 達	内	内 達	官 達	官 布
甲卅四ヨリ卅七	丙五	甲四	第九	甲三	甲十二	乙二十ヨリ廿一	甲十一ヨリ十五	乙卅五ヨリ四十二	甲二並十一ヨリ十三	第十四ヨリ十六	第七ヨリ十
司 民	司 刑	内 誌	東 報	東	東	東 達	警 達				
追加第廿三ヨリ廿四	第六十二ヨリ六十四	第三ヨリ四	一	三	乙二十二ヨリ十四	甲十ヨリ十八	乙十八				

特30  
196

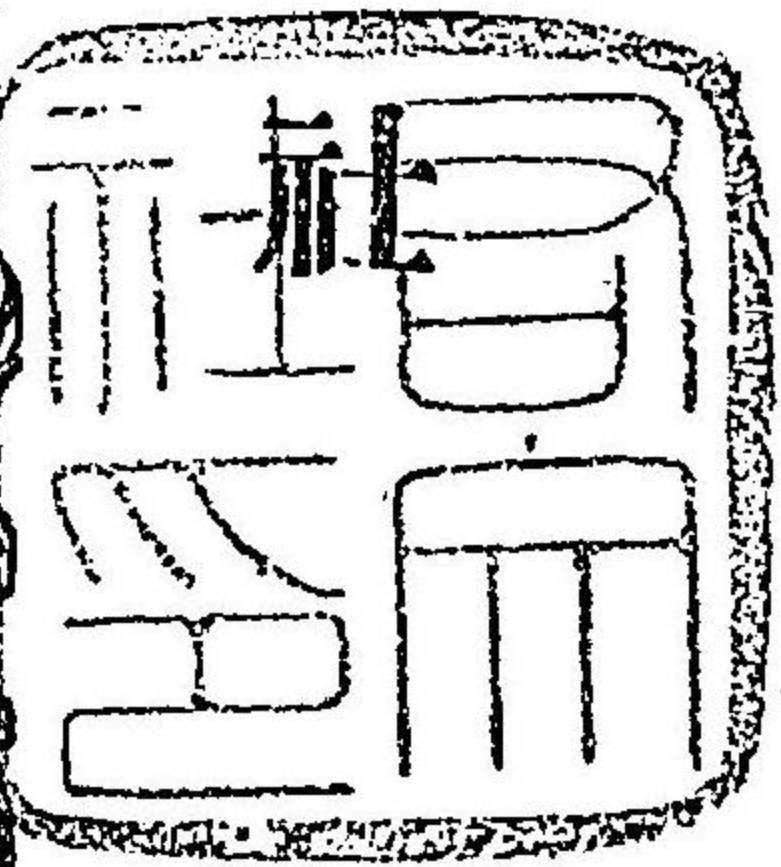
明治十一年第五月

訓 解

官 令 類 聚 第 五 號

沿革附

右 文



22  
4  
021

編纂綱目ヲ以テ主ト爲スト雖モ  
人或ハ符號ニ由ルヲ便トスル者  
アリ因テ此ニ羅列シテ敢テ重複  
ヲ避クテ看ルル人恕セヨ

目次

○太政官	
第七號	内國債募集ノ件 一七
第八號	株式條例改定 三一
第九號	海外行免狀廢止 二
第十號	蠶種原紙規則並 關係ノ布告廢止 三九
御達	神社經費金改定 二七
御達	流行病ノ際救治 概則第二條改正 一一
○内務省	
甲 二	各府縣下村市分合 改稱 一五

訓官令類聚第五號標目 明治十一年五月

○服制	
内務省乙三十七號	巡查夏略服改正ノ件 一
○制度	
○銃砲彈藥之部	
内務省乙三十六號	軍用銃所有者者轉籍寄留等二 ノ者簿冊記入方
○洋行法之部	
太政官 第九號	海外行免狀廢止ノ件 二〇
○軍事	
○水兵徵募之部	
海軍省甲第三號	徵募水兵出京途中金圓借 用ノ者屈方 二
○死傷處分之部	
陸軍省甲第十二號	戰死傷ノ準少尉以下恩給

標目

甲十一	蠶種原紙本年限	四〇	扶助等級更定ノ件	三
甲十二	望人ノ賣下	四〇	〇警察	
甲十三	各地官林伐採年 度云々	一五	〇鳥獸獵之部	
乙三十五	版權返納並追奪 書目	一一	警視局達	三
乙三十六	繪具染料食物ニ 着色注意方	一一	警視局甲第三十七號	四
乙三十七	軍用銃所有者轉 籍等簿冊記入方	一一	〇家業之部	
乙卅八	巡查夏略服改正	一一	警視局甲第三十五號	五
乙卅九	租稅納期經過處 分方云々	二九	〇道路之部	
乙四十	天台宗眞盛派管 長ヲ置ノ件	一一	警視局達	六
	博物館品物拜借心得 條例四條ノ追加	四一	警視局 乙第十八號	七
			〇違註之部	
			警視局甲第三十六號	八
			警視局達	九
			〇贓物之部	
			盜贓現在品假預ク處分方	九
			〇防火警報之部	

乙四十一	官有地社寺境内外區 畫決定ノ分下渡	一一	警視局甲第三十四號	出火信號改正	九
乙四十二	眞言宗仁和寺外七ヶ 寺西部ト稱云々	一一	〇典籍		
〇大藏省			〇版權之部		
甲第十一	新公債證書紛失	一六	內務省甲第十三號	版權返納並追奪書目	一一
甲第十二	秩祿公債書紛失	一六	〇教法		
甲第十三	起業公債証書發條 例設定	一八	〇社寺之部		
甲第十四	様式取引所東京大 坂一ヶ所限	三九	內務省乙第三十九號	天台宗眞盛派官長設置	一一
甲第十五	第卅四銀行設立	二六	內務省乙第四十一號	官有地ノ社寺境内外區 決定方無代價渡ノ件	一一
乙第二十	荒地帳調製並差出 方ノ件	二六	內務省乙第四十二號	眞言宗仁和寺外七ヶ寺 西部ト稱ノ管長設置	一一
乙第二十一	金錢利割稱呼治定 ノ件	二八	〇賑濟		
陸軍省			〇衛生之部		
			內務省乙第三十五號	繪具染料ニテ飲食物ニ 着色スル者注意取締方	一一
			〇醫藥之部		
			太政官第十六號	流行病ノ際貧者救治概則	

標目

甲第十二 戰地死傷ノ準少尉以下恩給扶助更定 三

○海軍省  
甲第三號 徵募水兵山京途中金圓借用届方 二

○工部省  
第九號 信濃國上田迄電信落成通信取扱 四

○開拓使  
甲第四號 漁場昆布場除稅云々ノ件 三二

丙第五號 漁船漂流乗組人々相書ノ件 一三

○警視局  
甲第四號 出火信號改正 九  
甲第五號 紙屑拾ヒ木札願方ノ件 五

中第二條改正 一一

○海關  
○漂没之部  
開拓使丙第五號 同使附屬漁船冲鷹丸乗組人溺死人相書 一三

○地理  
○郡界更正之部  
內務省甲第二號 各府縣下村市分合改稱 一五

○官林之部  
內務省甲第十二號 各地官林地理局伐採年度 一五

○會計  
○公債証書之部  
大藏省甲第十一號 新公債証書紛失ノ件 二六  
大藏省甲第十二號 秩祿公債証書紛失ノ件 一六  
太政官第七號 公益ノ爲内國債募集 一七  
大藏省甲第十三號 起業公債証書發行條例 一八

○銀行之部

甲卅六號 誣違罪目七十四五條追加ノ件 八

甲第七號 鵜鴉獵規則施行 四  
乙十八號 飲料水注意法施行ノ件 七

警 達 鷹鴉鵜巢箇所届方ノ件 三

警 達 街路取締規則中心得方ノ件 六

警 達 違式誣違處分手續中改正ノ件 九

警 達 盜贓現在品假預々處分ノ件 九

大藏省甲第十五號 第三十四國立銀行設立 二六

○帳簿之部  
大藏省乙第二十號 荒地帳調製並差出方 二六

○經費之部  
太政官第十四號 神社經費金被定 二七

○計算之部  
大藏省乙第廿一號 金錢利割稱呼被定 二八

○租稅  
○地稅之部  
內務省乙第三十八號 租稅納期經過處分方 二九

○諸稅之部  
開拓使甲第四號 漁場昆布場除稅云々 三一

○勸業  
○營業之部  
太政官第八號 株式條例改定ノ件 三一  
大藏省甲第十四號 株式取引所東京大坂一所限設立ノ件 三九

○物産之部

大政官第十號

蠶種原紙規則並右二條

ル布告廢止

三九

內務省甲第十一號

蠶種原紙本年限望ノ者

（賣下ノ件

四〇

○遞報

○電信之部

工部省第九號

信濃國上田迄電信落成

通信取扱ノ件

四〇

○博物

○博物品之部

內務省乙第四十號

博物館品物拜借人必得

條例四條（但書追加

四一

東京府甲第十號

海軍省下士以下家族無之

者ハ扶助金給與不相成

四一

東京府甲第十一號

海軍省軍樂科生徒募集

四二

東京府甲第十二號

官省札六月三十日限停止四二

東京府甲第十三號

諸鑑札書換料徴収云々中

但書改正

四三

東京府甲第十四號

村市分合改稱別冊下渡

四三

東京府甲第十五號

東京裁判及區裁判所官員

出頭期限

四三

東京府甲第十六號

伊豆七島ハ掛ル詞訟ハ築

地區裁判ヲ經由ノ件

四四

東京府甲第十七號

湯屋其他火葬場開設願警

視局ハ可差出件

四四

東京府甲第十八號

新聞其他雜誌諸願伺届等

警視本署ハ可差出ノ件

四四

東京府乙第十二號

本年三月乙第九號達地租

係ノ件更正

四四

東京府乙第十三號

三田育種場種苗交換規則

設定ノ件

四六

東京府乙第十四號

後備兵ノ者全戶他縣ハ寄

東京府達  
留轉籍等ノ節兵籍送達方四七  
府稅忌納等ニ付區務所ノ  
召喚ニ不應者云々ノ件 四八  
東京府達  
海軍徵募水兵出京途中旅  
費渡方云々ノ件 四八  
東京府達  
市街宅地等改正ノ價額ヲ  
以テ新稅施行ノ件 四八  
東京府勸業課報告  
濫製ノ紅茶取引不致樣注意  
ノ件 四八

○內務省日誌標目

- (島根) 縣) 神官職務心得方ノ儀ニ付伺 一
- 職務章程之
- (山形) 縣) 任免之部 二
- 神官職務心得方ノ儀ニ付伺
- (愛知) 縣) 巡査免職並ニ身代限ノ者再ヒ採用方伺 二
- 服制之部
- (愛知) 縣) 警部禮服ノ儀伺 三

- (島根) 縣) 神官教導職衣冠ノ儀伺 三
- (青森) 縣) 祭服代用ノ儀伺 四
- 法令之部
- (兵庫) 縣) 裁判支廳假規則ノ儀伺 四
- (大分) 縣) 銃砲賣買ノ儀ニ付伺 五
- 刑事之部
- (三重) 縣) 懲役囚傭工錢ノ内ヨリ親族ヘ給與方ノ儀伺 五
- (兵庫) 縣) 製表心得方ノ儀伺 六
- (兵庫) 縣) 懲役囚傭工錢ノ内ヨリ親族ヘ給與方ノ儀伺 六
- 職務罰例之部
- (愛知) 縣) 巡査罰金追徵方ノ儀伺 七
- 典籍之部
- (山梨) 縣) 寫真版權ノ儀伺 七
- 賣藥之部
- (新潟) 縣) 賣藥免許鑑札届出方ノ儀伺 八
- 海關之部
- (兵庫) 縣) 溺死人埋葬ノ費用支給方ノ儀伺 九

標目

(大)	芬	縣)	難波船新聞紙へ公告セシ費用ノ儀伺	九
		○戶籍之部		
(千)	葉	縣)	脱籍人復歸ノ節旅費繰替ノ儀伺	一〇
(兵)	庫	縣)	私通中ノ兒子分娩後嫡庶區別ノ儀伺	一〇
		○租稅之部		
(椽)	木	縣)	租稅未納ノ者處分方第三條中民費ノ儀伺	一〇
		○勸業之部		
(山)	梨	縣)	紅茶傳習方ノ儀伺	一一
(岐)	阜	縣)	物價運輸入馬繼立稼業ノ者ノ儀ニ付伺	一一
		○遺失之部		
(山)	梨	縣)	官廳内得遺失物ノ儀伺	一四
		○地券証書之部		
(長)	野	縣)	地主死亡後相續人へ券面書換方ノ儀伺	一四
		○會計支収之部		
(山)	形	縣)	豫防方ニ係ル費用ノ儀伺	一五
(愛)	媛	縣)	巡查筆墨料給與方伺	一五
(宮)	城	縣)	巡查へ可相渡諸公達類編集費ノ儀伺	一六

○司法省指令録刑事標目

○特典之部

(群)	馬	縣)	前非悔悟獄則ヲ守ル懲役人減等伺	一
(茨)	城	縣)	失火消防ニ盡力シタル懲役人減等伺	二
(東京)	裁判所檢事	縣)	同囚ノ縊首ヲ救ヒタル懲役人減等伺	二
(愛)	知	縣)	悔悟ノ實効アル懲役人減等伺	三
(山)	口	縣)	逃走囚ヲ捕得シタル懲役人減等伺	四
(三)	重	縣)	溺死セントスル者ヲ救援シタル懲役人減等伺	五
(長)	野	縣)	悔悟ノ實効アル懲役人減等伺	六
(大坂)	裁判所檢事	縣)	同囚ノ井中へ陥リタルヲ救援シタル者減等伺	六
(大坂)	裁判所檢事	縣)	同囚ノ縊死ヲ救援シタル懲役人減等伺	七
(大坂)	裁判所檢事	縣)	同囚ノ縊死ヲ阻救シタル懲役人減等伺	九
(石)	川	縣)	悔悟謹慎獄則ヲ守ル懲役人減等伺	一〇
(警)	視	局)	已未決囚ノ赦典ヲ乞フ儀伺	一一
(埼)	玉	縣)	逃走囚ヲ取押ヘタル懲役人減等伺	一二
(岐)	阜	縣)	未決囚ノ縊死ヲ阻救シタル懲役人減等伺	一二

標目



(福島縣)	失火消防ニ盡力シタル懲役人特典減等伺	一三
(岐阜縣)	同囚ノ井中ニ投身セシテ救援セシ懲役人減等伺	一四
○上告之部		
(福島縣)	刑事上告物置中前裁判言渡ノ日數滿期ノ者出獄責付ノ儀伺	一五
(群馬縣)	控訴上告規則ノ儀ニ付伺	一六
(神奈川縣)	上告却下ノ儀申告セシ者處分方伺	一六
○求刑之部		
(岡山縣)	求刑ノ儀伺	一七
(東京上等裁判所檢事)	死刑見込ヲ以送付ノ際黨類中尙ホ死刑ニ擬ス、キ者アルヲ發見セシテ取扱手續伺	一七
(大審院)	爭鬭ノ末毋ニ疵負セ死ニ致ス者處分伺	一八
○闘歐之部		
(松江裁判所)	竊盜得財未得財ノ儀及其犯人拒捕ノ儀伺	一九
○贓盜之部		
(山口縣)	置贓物處分ノ儀ニ付伺	二〇

(高知縣)	官林ノ樹木ヲ誤伐スル者并ニ贓物追徵處分伺	二一
○詐欺之部		
(大審院)	官文書及ヒ餘ノ文書ノ儀ニ付伺	二一
(模濱裁判所)	著書ヲ他人ニ販賣シ尙詐テ版權免計ヲ得タル者處分方伺	二三
○逃亡之部		
(大審院)	懲役一年以上ノ再ヒ逃走スル者處分方伺	二三
(東京上等裁判所)	懲役人獄衣ヲ着テ逃走シタル者處分方伺	二四
○斷獄之部		
(京都裁判所)	欠席裁判ノ儀ニ付伺	二四
(大審院)	非現行賭博犯ノ儀ニ付伺	二五
○賠償之部		
(山口縣)	區戸長入費金ヲ盜費シ逃亡スル者ノ賠償ノ儀伺	二六
○費用給與之部		
(神奈川縣)	各國領事廳へ刑事証人差出候節旅費給與方伺	二六
(松山裁判所)	疾病診查變死解剖證據鑑定費額資給方ノ儀伺	二七
○違註罪之部		

標目

(東京裁判所)

違式註違ノ犯人不服ヲ唱ヘテ處分ヲ拒ム者ノ儀  
ニ付伺

二八

○犯則之部

(大 審 院)

煙草印稅犯則ノ者處分ノ儀ニ付伺  
沒收物品處分ノ儀ニ付伺

二八  
三〇

○加 道 司法省指令錄民事標目

○訴訟之部

(東京裁判所)

民事裁判言渡書改正ノ儀伺

一

(水戸裁判所)

借主身代限後請人ニ對スル詞訟權限ノ儀伺

二

○相續法之部

(名古屋裁判所)

士族養戶主離縁ノ儀ニ付伺

三

○証券証書之部

(高 知 縣)

本年第四十四號公布ノ儀ニ付伺

六

(愛 知 縣)

証券界紙并訴訟用郵紙書損等ノ儀伺

六

○書入質入之部

(東京裁判所)

契約履行ノ儀伺

七

○地所操戻之部

(福 島 裁 判 所)

初審裁判以前上等裁判所ニ於テ裁判相成候儀伺

七

(弘 前 裁 判 所)

賣渡地所取戻ノ儀伺

一九

○不納處分之部

(東 京 府)

租稅怠納者處分ノ儀ニ付伺

二〇

(和 歌 山 縣)

租稅不納ノ者處分ノ儀伺

二一

(島 根 縣)

身代限處分ノ者區入費取立方出訴ノ儀ニ付伺

二二

○償金之部

(長崎上等裁判所)

九年司法省達第八十號償金違約金ノ儀伺

二三

○賠償之部

(福 島 裁 判 所)

盜賊賠償等ノ儀ニ付改達

二三

身代限之部

(愛 媛 縣)

民事身代限分配金ノ儀伺

二三

訓解官令類聚第五號

明治十一年五月

○服制之部

(內務省)

乙第三十七号

四月廿四日

東京府ヲ除ク府縣

明治九年(三月)當省乙第三十七号達巡查夏零服左ノ通改正候條此旨相達候事  
但從前ノ制ニ隨ヒ既ニ調製候分ハ本年ニ限リ其儘爲相用不苦候事

	地	質	色	徽	章
上	衣	木綿小倉織	白	制服ノ通	
袴	全		全	無	章

(內務省乙第三十七號明治九年三月廿四日東京府ヲ除ク府縣)明治八年太政官第  
百九拾四号ヲ以テ巡查制服ノ儀候相達候處夏服ニ限リ左ノ通路制着用不苦候條  
此旨相達候事

衣 地質適宜 色紺或黒 徽章 服ノ通  
袴 地質全上 白色 無章

○銃砲彈藥之部

(內務省)

乙第三十六號

四月廿一日

東京警視本署東京府ヲ除ク府縣

甲管廳ニ於テ改印セル軍用銃所有者轉籍寄留等ノ故ヲ以テ乙管下ヘ持越シタル后  
ナ獻納廢棄讓渡シ等願ヒ出ル時ハ乙管廳ニ於テ聞届ケ其趣キ甲管廳ヘ報告シ甲乙  
兩廳ノ簿冊ヲ加除候様致スヘシ此旨心得ノ爲相達候事

○洋行法ノ部

(天政官)

第九號

五月四日

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ條及同九年(十月)第百二十八  
號布告中海外行免狀ノ廢止候條目今外務省本年 月第一號布告海外旅券規則  
ニ照準スヘシ此旨布告候事 (外務省十一年一月壹號達令類聚本年第二號ニ掲

載スルヲ以テ畧ス)

○軍事

○水兵徵募ノ部

(海軍省)

甲第三號

四月三十日

府縣

徵募水兵出京途中於各府縣下不得止事故出來於各地金圓借用致候者往々有之候處  
右ハ明治十年十二月當省乙第十號達令第三條ニ恰通セスシテ出京難相成事情有之  
不得止金圓借用致候者有之節ハ其事由ヲ詳記シテ區長捺印ノ上各管廳ヨリ當  
省事務局ニ報告候様致候致此旨豫テ相達置候事

海軍省 水兵 乙第十號達令第三條(入營途中川支并病氣等)ヲ不得止滞在  
スルルル其地區區長ノ証書及ヒ醫師診斷書ヲ添ヘ可申立若シ步行難成宿駕ヲ要  
スルル其地通運會社ノ証書ヲ添ヘ一日金二十五錢ノ滯留日當及賃金ヲ給ス  
ルル最廉價ノ區區長ノ証書ヲ以テ申立ベシ

(陸軍省)

甲第十七號

五月三日

陸軍省 昨由年鹿兒島賊徒征討ノ際戰役ニ服シ戰死負傷候準少尉並士官見習生徒及教導團  
生徒其他臨時編製諸大隊長以下ノ者恩給令ニ因リ恩給扶助等級相當ノ儀左ノ通相  
定候條此旨相達候事

陸軍省 陸軍省ヨリ申付タル者(並士官見習生徒少尉試補ニ準シ教導團生徒ハ  
諸卒ニ準シ)遊撃別手組取締官軍曹ニ同副取締官伍長ニ同副取締助手ヲ諸卒ニ  
準シ 臨時召集隊各隊附武官ニ任セラレズシテ大隊長以下ノ職務ヲ奉シタル者  
別表相當ヲ以テ之ヲ處分ス

(警視官)

○警察

○鳥獸獵之部

(警視局達)

四月廿五日

各分署於伊葛鴨鵝巢箇所是迄取調差出シ來候處着手致候箇所見出候箇所

官令

ト混淆致シ取調上差支候條右チ區別シ明細取調尙明後廿六日日報ノ節可被差出事  
前書廿六日以後見出シ候分ハ時々は迄ノ通届書ヲ以テ可差出事

但着手ノ分ハ日報ニ記載シ出段届出ニ不及事

(警視局) 甲第三十七號 五月十七日

鴉鴉獵規則左ノ通り相定メラレ本月廿五日ヨリ施行候條心得ノ爲メ此旨布達候事

鴉鴉獵規則

- 第一條 東京府下朱引内外ノ地ニ於テ有害ノ鴉鴉等ヲ射殺スル之ヲ鴉鴉獵トス
- 第二條 鴉鴉獵手ハ大警視ニ於テ警部巡查ノ内精選シ之ニ證券ヲ付與ス
- 第三條 射手ハ毎三名ヲ以テ一組トシ取締ノ爲メ警部若クハ警部補ノ内一名必ス之レヲ率ユルモノトス
- 第四條 鴉鴉獵ハ西洋形獵銃ニ限ルヘシ軍用銃ヲ用ユルヲ禁ス
- 第五條 朱引内ニ於テスル鴉鴉獵ハ皇城及ヒ陸軍省所轄地并ニ守衛地ヲ除クノ外郭内芝上野護國寺山内チ定獵場トス
- 第六條 定獵場ノ外朱引内官署社寺民家等ニ屬スル森林ト雖モ鴉鴉群集シテ害ヲ爲シ射殺ヲ要フルコトアルハ預メ該地主及ヒ最寄警視分署ヘ通牒シ臨時之ヲ射殺スベシ
- 第七條 朱引外銃獵ヲ禁セサル地ニ於テハ一般ノ鳥獸獵規則ニ因ルベシ其銃獵禁

制ノ地ニ於テハ第六條ノ手續ヲナスベシ

第八條 鴉鴉獵ハ日出ヨリ日没ヲ限リトスヘシ

第九條 出獵スル者ハ必ス其証券ヲ携帯スヘシ出獵中警視官吏區長等證券ヲ看  
ント請フキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條 鴉鴉獵ハ其有害ヲ掃除スル爲メ行フモノタルヲ以テ無害ノ鳥獸ヲ射殺ス  
ヘカラス

第十一條 鴉鴉獵ヲナスニ方リ已ムテ得サル場合ト雖トモ家屋人畜ニ向テ銃ヲ擬  
シ或ハ垣牆ヲ破壊シ田畝ヲ蹂躪スル等ハ嚴禁ス

第十二條 獵銃ハ四十五度以下ノ弧角ヲ以テ打放スヘカラス又タ裝填銃ヲ携ヘ漫  
リニ歩行スヘカラス

第十三條 警視官吏ニテ危險又ハ妨害アリト認メ臨時鴉鴉獵ヲ止メンコト請フキ  
ハ發射ヲナスヘカラス

○家業之部

(警視局) 甲第三十五號 四月三十日

紙屑拾ヒノ者自今左ノ雛形ノ木札ヲ添ヘ其區戶長ノ奥印ヲ以テ警視本署ヘ願出檢  
印ヲ受ケ必ラズ提携ノ紙屑籠ヘ表出致スベシ此旨布達候事

但從前紙屑拾ヒノ者ハ一小區限リ戶長ニ於テ取纏メ來五月三十一日限リ本文ノ

手續準本署第二課へ差出スルキ事  
長 八 寸

何大區何小區
何町何丁目何番地
何 誰
何年何月何日
紙屑拾ヒ

○道路之部  
警視局達 四月二十日  
各 分 署

（警視局達）四月二十日  
街路取締規則第一條第三條左ノ通り可相心得爲念此旨相達候事  
第二條中 招牌トアルハ鈎看板モ同様ノ儀ト心得ベシ  
但京橋以南人道車馬道ノ區分アル場所限リ高サ二丈以上表軒先ヨリ限迄ハ  
張出シ不苦モノトス  
第三條中 水際ヨリ二尺トアルハ普通（幅一尺ヨリ二尺迄ヲ云）下水外ヨリ三尺  
迄得ルシ  
但大幅下水ハ本文ヨリ準シ現場調査ノ上酌量ヲ加ヘ許否スベシ

（街路取締規則中第一條）凡テ下水外ニ招牌標旗物干等建設スルヲ許サス（第三條）日除テ張出シ及ヒ物品ヲ排列スルハ下水際（人道車道區別アル場所ハ家屋土  
（實際）ヨリ二尺迄ニ限ル可シ

（警視局） 東京府 乙第十八號 五月九日 區 戸 長

不潔ノ水ヲ飲料ニ用フル時ハ人身ノ健全ヲ害スルハ勿論ニ候處從來都下ノ風習ニ  
テ粗造ノ井戸側ヲ用ヒ或ハ甲板下水ノ設ケナク或ハ下水ノ設ケアルモ頗ル接近ス  
ルヲ以テ溜滯ノ汚水自然井中ニ滲入シ爲メニ水ノ素質ヲ變換スルノ患害不尠就中  
傳染病流行ノ際ニ於テハ最モ忽カセニ可カラザル儀ニ付自今共同私有ノ別ナシ  
別紙飲料水注意法ニ照シ新調又ハ補理候様無遺漏各自ニ懇篤可論達此旨相達候事  
但時々警視官吏巡廻實地検査ニ可及候事

（別 紙） 飲料水注意法

- 一 井戸側ノ破壊シテ汚水滲透スルノ患アルモノハ速カニ新調スベシ
- 一 井戸流シノ大破スルモノハ新調シ其小損スルモノハ板及墜土等相應ノモノヲ以  
テ精密ニ壅塞スベシ
- 一 凡ソ井戸ニ下水ナキモノハ新タニ作ルベシ
- 一 但下水ハ能ク水ノ流通スル様注意スベシ
- 一 土地ノ高低或ハ人家稠密等ニヨリテ下水ヲ設クルニ差支ル場所ハ地形其他ノ事

ナ商量シ漸次下水開設ニ注意スヘシ

但本文ノ場所ニテハ府廳ノ檢査ヲ乞ヒ指圖ヲ受クベシ

一前條土地ノ摸樣ニヨリ下水ヲ疏通スル路ナキ場所ニ於テハ當分汚水溜ノ設ケアルモ妨ゲズト雖モ井戸ヲ距ルコト二間以上タルベシ

但地所狹隘ニシテ二間以内接近セザルヲ得ザル場所ハ板又ハ墜土等ヲ以テ汚

水ノ漏レサル様ニスベシ

一井戸ヨリ三間以内ハ厨房ヲ新クニ作ル可カラズ

但現在設置ノ分ト雖モ修繕等アル毎ニ本文ニ準スベシ

一井戸近傍ニ於テ裸體虎子等汚穢ノ物品ヲ洗滌シ及ヒ魚鳥ノ骨腸等ヲ棄ツ可ラズ

一呼ヒ井水ノ水管破損スルト認ムルハ速カニ之ヲ補理スベシ

一上水井ニ於テハ汚濁且塵埃等アルカ又ハ臭氣ヲ含ムモノアレハ速カニ府廳又ハ

該區務所ニ調査ノ儀申出ツベシ

一毎年少ナクモ一度ツ、井戸浚ヲナスベシ

○違註之部

(警視局) 甲第三十六號 五月二日

註違罪目左ノ通追加候條此旨布達候事

第七十四條 街上ニ於テ高聲ニ唱歌スル者

但歌舞營業ノ者ハ此限ニ非ラズ

第七十五條 夜間十二時後歌舞曲又ハ喧嘩シテ他ノ安眠ヲ妨クル者

(警視局達) 五月十八日 各 分 署

明治九年六月達第十七號違式註違處分手續第廿六條第二ノ書式中(違式罪)ハ(違式贖金)ト改メ又(情法ヲ酌量シ)ノ六字ヲ刪除シ(其情狀ノ重キニ依リ)ノ九字ヲ填補候條此旨相達候事

○贓物ノ部

(警視局達) 四月廿八日 三 課 各 分 署

盜贓現在スル分從來其事主ニ假リ預ケ致シ置タル儀モ有之候處自今其現在ノ所持主ニ預置受取ヲ取り本犯ニ相添送致スベシ此旨相達候事

但明治九年警視廳第百五十二號達贓物取扱手續ニ依テ處分スルハ此限ニ非ス尤此場合ニ於テハ十年本署十八號達ヲモ参照スベシ

○防火警報之部

(警視局) 甲第三十四號 四月二十日

出火信號ノ儀左ノ通改定候條此旨布達候事

第一 知セノ信號

○何々通リト大音ニ呼フ ○同上 ○同上

第二 其方面出火ノ節信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

第三 應援信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

本署此信號ニテ順次打繼キ各方面當番消火夫ヲ線出スベシ

第四 各方面總出信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

本署此信號ニテ順次打繼キ各方面消火夫總出タルベシ

第五 皇居近火信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

此信號ニテ消火夫總出タルベシ

第六 近火信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

此信號ハ三町以内ヲ限ルベシ

第七 鎮火信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

第八 非常信號

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—○—

此信號ハ號砲聞知次第打繼ベシ

右規則ノ外勝手ノ打方決シテ不相成事

○典 籍

○版權之部

(内務省) 甲第十三號 五月十八日

本年一月ヨリ三月ニ至ル圖書版權寫真版權書目及第一號ヨリ第五號迄ノ内版權返

納並追奪ノ分別冊ノ通候條此旨布達候事 (別冊畧ス)

○教 法

○社寺之部

(内務省) 乙第三十九號 五月六日

天台宗中興盛派ノ儀管長設置願出聞届候條此旨相達候事

(内務省) 乙第四十一號 五月九日

官國幣社式社及文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺並公園地區畫中ノ社寺ヲ除クノ

外宿有地ニ在ル社寺ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ該社寺於テ請願候ハ、無代

價下渡民有地第一種ニ組替其旨時々可届出此旨相達候事

(内務省) 乙第四十二號 五月二十日



興言宗仁和寺外七ヶ寺左ノ通該宗西部ト稱シ管長別置之儀願出聞届候條此百爲心得相達候事 興言宗西部 京都府下 仁和寺○大覺寺○廣隆寺○神護寺○堺縣下 法相宗○法隆寺○同藥師寺○律宗 西大寺○同招提寺

○賑濟

○衛生之部

(内務省) 乙第三十五號

四月十八日

府 縣

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スルモノ不尠趣ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽地ニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事 追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當省衛生局へ照會試驗ヲ受可申事

○醫藥之部

(太政官) 第十六號

五月十八日

使 府 縣

明治八年四月第四十九號達第二條左ノ通改正候條此旨相達候事 第二條 醫員ノ手當ハ其技術ノ優劣ト病性ノ劇易トテ酌量シ一ヶ月三十圓以内ヲ以テ雇入勤日數ニ應シ支給シ旅費日當ハ九年六月第六十四號達内國旅費定則ニ照準管内外ノ區分ヲ以テ支給スベシ

(第二條改正前ノ分)一醫員ノ手當ハ其技術ノ優劣ニ應シ一ヶ月十五圓以内ヲ以テ勤日數ニ應シ支給スベシ巡回滞留ノ日當ハ府縣管内旅費日當表八等以下ニ準シ支給スベシ

○海 關

○漂没之部

(開拓使) 丙第五號

四月廿七日

沿 海 府 縣

去月二十六日當使管下渡島國津輕郡福山灣ニ於テ附属漁船冲鷹丸暴風ノ難ニ罹リ船長堀口貞之外四名高浪ノ爲海中ニ落入今以テ行方相知ンズ候ニ付自然別紙人相書ノ死體漂着候歟又ハ所在見聞候ハ、速カニ當使へ届出ベク此旨相達候事

(人 相 書)

船長開拓使御用係東京府士族

堀 口 貞 之

二十五年

中丈中肉 顔長キ方 色薄黒キ方 鼻常体 目常体 口常体 耳常體 齒常体 頭散髮薄キ方 頭上中央二寸許回禿 着服紺玉羅紗大コート 同羅紗コート襟ニ狐ノ皮付 同綾羅紗脊廣金ボタン付 鼠羅紗堅縞ツボン 白シヤツ フラチル襦袢 ム長靴 所持品手帳壹 銀時計壹

官令

一等水夫廣島縣平民

宮地忠平

三十三年許

丈高キ方中肉 顔長キ方 色薄黒キ方 齒常体 口常体 耳常体 頭散髪濃キ方 鼻高キ方 着服紺ヘル脊廣 同大羅紗ツヤケツ 縞羅紗ツボンフランネル同 紺大羅紗雨着 ゴム長靴

三等水夫廣島縣平民

小島増吉

三十六年

丈高キ方 肉瘠タル方 顔細キ方 色薄黒キ方 目凹ミタル方 齒常体 口常体 耳常体 頭散髪薄キ方 着服紺ヘルヨダレ掛 紺ヘルツボン 縞フランネル同

三等水夫廣島縣平民

村上芳藏

三十五年

丈低キ方 肉肥タル方 顔丸キ方 色黒キ方 鼻低キ方 目丸キ方 齒前上一枚無 口常体 耳常体 頭散髪極薄キ方 着服紺ヘルヨダレ掛 同ツボン縞フ

ランネル 半靴

石川縣平民

山口 孫治郎

三十三年許

中丈少々肥タル 顔平ナル方 色淺黒キ方 鼻高キ方 目常體 齒前下ノ方 二枚ナシ 口常体 耳常体 散髪薄キ方 着服紺ヘルヨダレ掛 同ツボン黒フ ラネル 雨合羽 半靴

○地理

○郡界更正之部

(内務省) 甲第二號 三月一日

明治九年七月ヨリ同十二月ニ至ル各府縣下村市分台改稱新稱等別冊ノ通有之候條 此旨布告候事(別冊零ス)

(内務省) 甲第十號 五月六日

長野縣管下信濃國埴科郡坂本村ト同國更級郡方石村トノ境界從來不明瞭ナル處今 般千曲川中央ヲ以テ郡界ト相定メ候條此旨布達候事

○官林之部

(内務省) 甲第十二號 五月十三日

官令

各地官林ノ内當省地理局於テ伐出シノ木材ハ自今別紙甲號圖ノ通切判イヌシ并其  
伐採年度ヲ查別スル爲メ乙號圖ノ通年々切判相加ヘ候等ニ付此旨布達候事  
將來官材ニ相用候切判形

甲 號

官林ヲ証スル爲メ將來相 伐木ノ年度ヲ查別スル爲年  
用ユヘキ切判形以下全シ 々相用ユヘキ切判以下全

乙 號

十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

但明治二十一年ハ尙十一年ノ切判形ヲ用ユ以下倣之

○會計

○公債證書之部

(大藏省) 甲第十一號 四月廿二日

新公債證書五拾圓(印貳六一七番一枚右ハ鹿兒島縣下市成郷所有ニ候處昨十年七  
八月中動亂ニ罹リ紛失候旨今回届出候條以後右ノ證書一切取引ヲ爲スヘカラス且  
其所在ヲ見聞ノ者ハ速カニ管轄廳ヘ訴出管廳ヨリハ即當省ヘ可届出此旨布達候事  
(大藏省) 甲第十二號 四月三十日

石川縣下安達嘉安所特明治七年發行秩祿公債証書貳拾五圓(印四五三番壹枚同縣  
下ニ於テ落失ノ旨届出候條右種類番號ノ証書ハ一切取引ヲ爲スヘカラス又何人ニ  
限ラズ所持致シ居候ヲ見聞候者ハ速カニ管轄廳ヘ訴出ベシ管轄廳ヨリハ即當省  
ヘ届出ベシ此旨布達候事

(太政官) 第七號 四月三十日

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスルタメ新  
ニ一千二百五十万圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スベキニ決定セラレ右募債方一切  
大藏卿ヘ御委任相成候條此旨布告候事

但詳細ノ儀ハ大藏卿ヨリ布達及フ可ク候事

(大藏省) 甲第十三號 五月一日

官令

今般内國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債証書發行條例別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

起業公債証書發行條例

此公債ハ明治十一年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ日本政府ノ公債トシテ各債主へ此公債証書ヲ交付シ年限ヲ定テ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 公債証書ノ元高種類并ニ利息ノ制限ヲ示ス

第一節 此公債ノ元高ハ一千二百五拾万圓ニシテ年六分(百分ノ六)利付トシ其元金ハ二箇年間据置三箇年目(即チ明治十三年)ヨリ向廿三箇年ヲ限リ(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲クル抽籤ノ方法ヲ用ヒ)之ヲ拂戻スベシ而シテ其利息ハ(第二條第二節ノ但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込皆濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スベシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スベシ)但明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄分ノ十六日以後ニ係ルハ半箇月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシキ迄ノ分下渡スベシ

第二節 此公債証書面ノ金高ヲ五百圓百圓五拾圓ニ三種ニ區別シ利息ノ小札付トス

但本文ノ利札ハ毎年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀等ニテ切取引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 公債証書授受賣買等ノ事ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ(第六條ニ掲クル記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管廳ノ檢印ヲ受クル等ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)名目ノ隨意タルベシ

但質入書入(外國人ヲ除ク)及ヒ相續人へノ遺物モ勝手タルベシ

第三條 募債并ニ出金等ノ手續概略ヲ論ス

第一節 此公債ノ募集方并ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行并三井銀行へ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息并ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙ヲ以テ廣告ニ及フベシ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシノ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトス其時日ハ右兩銀行ヨリ廣告スベシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半箇月分十六日以後ニ係ルハ翌月分ニ立テ)計算スルモノトス第四節

ノ月割法亦之ニ倣フヲ以テ之ヲ拂渡スベシ

第三節 右四度ノ内手附金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假証券ヲ以テ舊假証券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ニ至リ此公債証書ヲ假証券ト引換ニ交付スベシ

但公債証書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スベシ

第四節 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スベシ

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ニ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セザルベシ

第六節 出金未タ皆濟ニ至ラズ此公債証書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假証券ヲ授受賣買質入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルベシ尤モ授受賣買ノ節ハ其証券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且ツ調印スルモノトス

但此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ本條第五節ノ通りタルベシ

第七節 若シ申込ノ出金高募集スヘキ見込高ヨリ超過スルハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケ之ヲ減却スルコトモアルヘシ

第四條 抽籤ノ手續概略ヲ示ス

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債証書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ノ拂戻スベキ証書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速カニ新聞紙等ヲ以テ廣告スベシ

第五條 証書ノ毀損等ノ心得方ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アリトモ主要ノ印部等ニ損害ナク正真ノ證書タルヲ保認スベキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スベシ尤モ過失ニテ此公債証書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ビ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認シ難キ程ノ墨附等アレハ速カニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フベシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スベシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該証書面ニ金高番記

號ノ部分必ス判然存在シ真正ノ証書ニ相違ナシト見認ル分ハ之カ引換ヲ爲スベシ  
但此引換ヲ乞フニハ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フベシ

第六條 記名公債証書ニ變改スル手續并ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

第一節 此公債証書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名証書ト爲スコトヲ得ヘシ其變改ノ手續并ニ規則等左ノ如シ

第二節 無記名証書ヲ記名ニ變改スルニハ証書ヲ引換ユルニ非ス又証書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ヘシ右銀行ハ(支店并ニ取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所并ニ入用証書ノ金高ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ証書ヲ(記名相添ヘ)受取り之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クベシ  
第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該証書ニ記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニテハ該証書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該証書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名

住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ檢印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ附與スベシ  
但一旦無記名証書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該証書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ベシ管廳ヨリハ願人ヘ証書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ與印シテ極印濟ミノ証書并ニ記名紙ヲ受取リ成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨリ受取置クモ適宜タルベシ

第五節 前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流焼失等ノ虞ハ明治八年五月太政官第九十五號布告改正新舊公債証書發行條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スベシ尤モ右條例ヲ此記名証書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字并ニ不用ノ廉々左ノ如シ  
但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト同様ナルモノトス

右條例中第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債証書共」并ニ「新舊公債証書」トアルハ都テ「此ノ記名公債証書」ト改ム○第六條第一節但書ノ「其都度大藏省ヘ届出ベシ」ヲ置クベシニ改ム同條第二節「証書裏面ヘ形ノ通り(裏面離形)及ヒ同條第三節ノ「証書裏面ヘ形ノ如ク(裏面離形)ハ都テ「記名紙ヘ末ニ附スル離形ノ通」ト改ム○同條第三節ノ「大藏省ヘハ云々」ノ十五字ヲ「置クベシ」ニ改ム○同條第四節ノ但書ヲ刪除ス○同條第五節并ニ第七節八節ノ「証書ヘ割印」ハ都テ「記名紙ヘ割印」

ニ改ム○同條第七節ノ「且大藏省ハ一月分翌月五日迄ニ」ノ廿七字ハ不用○同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スベシ」ニ改ム○同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字并ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス○同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム○同條第七節第一節ノ「其所持人ハ下渡スベシ云々」ノ四十七字ヲ「何ハタリモ其持參人（外國人ヲ除ク外）相渡スベシ」ニ改ム○同條第八條割注ノ二十一字ヲ「此公債証書記名紙繼立ノ手續キテ明ニス」ニ改ム○同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘裕」ニ改メ「証書人繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム○同條第九條第一節ノ但書ヲ削除ス○同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス○同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム○同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 證書贗造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債証書（無記名記名共）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲ爲スベカラス若シ犯ス者アソハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命ズベシ

第二節 此証書ヲ贗造シ又ハ人ヲ贗造セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲ變換セシメ又ハ變換セシ

モノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スベシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スベシ

第二節 右增補改正等アルキハ速ニ其ノ旨趣ヲ公告スベシ

明治十一年五月

記名紙雛形

大藏省

本文証書何大區何小區何町何某ハ相渡候者也

馬 璽

何府縣公 債 掛  
 何 某 印  
 明治何年何月日

一此證書是迄拙者所持ノ處貴殿ハ讓渡候事實正也

明治何年何月何日

甲 何某印

官令

何府 何縣 下何大區 何小區

何町何番地 住居 乙 何某殿  
寄留

本文之通相違無之者也

何府縣 公債掛

明治何年何月何日

何某印

○銀行之部

(大藏省) 甲第十五號

五月十一日

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ資本金十萬圓ヲ以テ大坂府下第一大區九小區高麗橋五丁目十九番地ニ設立シタル第三十四國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置壹圓紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換致サセ候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ疑念ナク授受致スヘシ此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九十號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

○帳簿之部

(大藏省) 乙第二拾號

四月二十日

荒地帳離形ノ儀ハ地租改正事務局昨十年乙第十三號ヲ以達有之候處荒地起返ノ儀

府 縣

モ以降別紙離形ノ通取調年々地券稅帳一同可差出此旨相達候事 (別紙離形畧ス)

○經費之部

(太政官)

第十四號

四月廿九日

府 縣

明治十一年度神社經費金ノ儀十年十二月第九十一號ヲ以テ神官ヲ廢シ更ニ祭主以下職員官等相定候ニ付テハ神官及ヒ賜饌料其他減額可相成分ヲ除ク外總テ同年(五月)第四十二號達ノ通相定候條成規ニ照準シ右ヲ以テ一周歲ノ費額支辨可致旨神官へ可相達事

但本文減額ニ係ル分及ヒ大科目金員流用ヲ要スル分ハ往復ヲ除ク外日數十日限リ取調大藏省へ可申出且本年豫算帳ノ儀ハ未ク申牒不致向ハ差出ニ不及事  
沿革(太政官第九十壹號十年十二月八日官院省使府縣)神宮並官國幣社神官ヲ廢シ更ニ祭主以下職員官等月俸左ノ通被定候事

神宮 祭主一員 宮司一員 禰宜五員 主典二十員 宮掌三十員

官幣國幣 大社 宮司一員 禰宜一員 主典五員

但該社ノ廣狹ニ依リ實際不得止向ハ一二員ヲ増減スルヲ得

官幣國幣 中社 宮司一員 禰宜一員 主典三員

但大社ニ同シ

官幣小社 別格官幣社 國幣小社 宮司一員 禰宜二員 主典二員

官令



但大社ニ同シ

官等月俸表ノ零

- 神宮 祭主 三等八十圓 宮司 六等卅圓 禰宜 九等十五圓 主典 十三等八圓 宮掌 十六等七圓
- 官幣 國幣 大社 宮司 七等廿五圓 禰宜 十一等九圓 主典 十六等七圓
- 同 中社 宮司 九等十五圓 禰宜 十三等八圓 主典 十七等六圓
- 官幣小社 別格官幣社 國幣小社 宮司 十等十圓 禰宜 十八等八圓 主典 十七等六圓

○計算之部

(大藏省) 乙第二十一號 五月二日

府 縣

今般於當省金錢利割稱呼ノ儀左ノ通相定候條各廳ニ於テモ官金取扱上右ノ稱呼相  
用可申此旨相達候事

利割稱呼左ノ如シ

- 割 利割ノ首位即チ元高十分ノ稱 分 割十分ノ稱即チ元高百分ノ稱
- 厘 分十分ノ稱即チ元高十分ノ稱 毛 厘十分ノ稱即チ元高百分ノ稱

(大藏省) 乙第二十二號 五月十日

府 縣

明治八年度歲入出ノ儀本年六月十五日ヲ以テ出納鎖閉致シ候條未タ完結ニ至ラザ  
ル向ハ同日迄ニ悉皆納拂ヒノ順序ヲ了スベシ尤モ右期日迄ニ納拂ヒ濟ノ分ハ其金  
額ニ對シ決算証書交付スベキコ付爾後勘定帳整理上ニ於テ差異ヲ生スルアラハ其  
納拂ヒスル年度ノ稅外收入及ヒ經費勘定帳中ニ雜部ヲ設ケ整頓候様致スベシ此旨  
相達候事

○租 稅

○地租之部

(內務省) 乙第三十八號 四月三十日

府 縣

租稅未納ノ者處分ノ儀昨十年十一月第七十九號公布相成右取扱方ニ付大藏省ヨリ  
本年二月乙第七號ヲ以テ達シ有之候處民費ノ儀ハ目下支消スベキ費用賦課徵集候  
筋ニテ改正未濟地租假納ト同様ノ振リニハ無之ニ付納期三十日ヲ經過候ハ直ニ  
七十九號公布規則ニ準シ處分可致等ニ付爲心得此旨相達候事  
但民費不納公賣ノ節假納中ノ地租ヲ徵收スル時ハ其年ノ石代相場ヲ以テスベシ  
其年ノ石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テスベシ  
(太政官第七十九號明治十年十一月廿一日)租稅未納ノ者ハ從來怠納金ヲ徵シ本  
人身代限ヲ以テ取立ル等ノ處分モ有之處自今右處分ヲ廢シ更ニ左ノ通區別相立

官令

處分致スベシ此旨布告候事

第一條 徵收期限(每期ヲ云)後三十日ヲ過テ尙國稅ヲ上納セサル時ハ之ヲ賦課シタル財産ヲ公賣シテ徵收スベシ若シ其財産他人へ賣與讓與シタル時ハ之ヲ買受讓受タル者ヨリ完納セシムベシ

但書入質入(地所質入ハ其規則ニ從フ)ノ財産ニ未納稅アル時其債主ニ於テ辨納スベシト申立ル者ハ其意ニ任セ公賣ヲ行ハズ

第二條 營業稅ヲ上納セサル時ハ其營業ヲ停止ス其製造品アル者ハ之ヲ公賣シ次ニ其器物ニ及ホスベシ

但釀造稅モ本條ニ據テ處分スベシ

第三條 府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スベシ

但各別ニ財産ヲ指定メテ賦課セサル民費徵收ニ付テハ土地家屋ヲ除キ他ノ財産ニ付先取特權アリトス

第四條 凡租稅不納ニ付財産ヲ公賣セントスル時ハ地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ關スル入費ヲ引去リ而後國稅府縣稅民費ヲ徵シ剩餘アル時ハ之ヲ本人ニ還付ス若シ不足アル時國稅府縣稅ハ官ノ損失ニ歸シ民費ハ該區ノ損失ニ歸ス但該財産ニ付テ區戶長役所ノ帳簿ニ記載セル債主アル時ハ其殘金ヲ順次其債主ニ付ス

(大藏省乙第七號達ハ類聚本年第二號二十三丁ニ掲載アルヲ以テ略ス)

〇諸稅之部

(開拓使) 甲第四號 五月八日

當使管下北海道各所ニ於テ漁場昆布場自費新開ノ分ハ五ケ年間免稅ノ儀明治七年第四號(府縣)第十四號(管内)ヲ以テ及布達置候處開業ノ際斷岸ヲ剝リ海汀ヲ埋メ河底ノ流水ヲ浚へ或ハ自然ノ地形ニ依リ各難易漁獲ノ多寡等頗ル徑庭有之候ニ付自今實地ヲ精査シ更ニ二ケ年乃至五ケ年除稅候條此旨布達候事

(太政官) 第八號 五月四日

明治七年(十月)第七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

〇勸農

〇營業之部

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債証書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書へ其地方長官ノ稟書ヲ受ケ之ヲ大藏省へ差出

シ大藏卿ノ允許ヲ請フベシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クモ拾名以上ニシテ其資本金額ハ貳拾万圓以上タルベシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ發起人總員ニテ出スベシ

第三條 大藏卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セザルコトアルベシ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書証印ヲ受ケ之ヲ大藏省ニ差出スベシ(但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クトモ三ヶ月間ニ差出スベシ若シ右期限内ニ差出サザルハ其許可ハ無効ニ屬スベシ)

第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スベシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得サルベシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及其責任ノ有限無限(有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限或ハ其株券ノ二倍等其限アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フ)ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スベキ旨ヲ政府ニ對シ保証スルモノナリ  
定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互ニ相確

守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 大藏卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與書証印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スベシ  
但爾後取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及定款申合規則ヲ改正加除セントスルハ其時々大藏卿ノ認許ヲ受クベシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保証ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以)ヲ大藏省ニ差出シ預置クベシ  
但開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサズ又ハ開業セザルコトアルトキハ其免狀ハ取消タルベシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ケ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ベシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルハ更ニ允許ヲ受クベシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀并ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スベシ  
第二章 株主并ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定株式トナシ株手形ヲ製シ

其株主タルモノヘ之ヲ交付スベシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時コテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閱スル  
コトヲ得ベシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラザル間ハ其株金ヲ  
取戻スコトヲ得ズ

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シテ  
ナスコトヲ得ベシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラザル時間ハ何時ニテモ仲買人タル  
ヲ得ベシト雖モ仲買人トナリタルキハ仲買人ノ規則ヲ遵守スベシ而シテ賣買上ニ於  
テハ之ヲ仲買人ト稱スベシ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 取引所ノ規定ニ從ヒ相當ノ身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得テ自ラ株  
式賣買ノ取引ヲナスモノヲ其取引所ノ仲買人ト稱スベシ

但仲買人ニ於テ假令他人ノ依頼ヲ受ケ賣買セシモノト雖トモ取引所ニ於テハ都  
テ仲買人ノ賣買シタルモノト看做スベシ

第十六條 仲買人ノ身元金ハ少クシトモ百圓以上タルベシ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルベシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負

債ノ義務ヲ免レタル實証アルコト非サレハ入社ヲ許サハルベシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ少クモ五名以上ト定メ株主ノ總會ニ於テ其取引所ノ規  
定ニ從ヒ現ニ三拾株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰定シ又其肝煎ハ同僚中ヨリ

頭取一人ヲ推舉スベシ而シテ支配人以下ノ諸役員ハ頭取並ニ肝煎ノ衆議ニ依リ株  
主又ハ株主外ヨリ之ヲ撰任スベシ

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルベシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スベシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レテ解キ違約者ヲ處分スルノ責任ア  
リトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ  
之ヲ定款中ニ記載スベシ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主并仲買人ト爲スコト得ズ

第廿五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルベシ

第廿六條 取引所ニ關係アル政府ノ官吏ハ其取引所ノ株主タルヲ許サズ

第廿七條 取引所ノ役員タル者其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人ト成ベカラス

第廿八條 取引所ノ役員及ビ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人

或ハ他人銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ズ

第廿九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持ス

ルヲ許サズ又之ヲ賣買スベカラズ

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債証書及ビ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行

シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣

買シ他ノ事業ヲ營ムベカラス

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ゲタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クベキ

公債証書ヲ除クノ外自ラ諸公債証書株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スベカラス

第三十二條 取引所ハ諸証據金ヲ使用スベカラズ又貸附金ヲナスベカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其証據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約

ニ依リ相手方ニ於テ失ヒタル利得ト蒙タル損害トヲ償ハシムルニ止マルベシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及

ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スニコト依頼ヲ受ルト雖トモ其事情ヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願屆又ハ諸証書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關

スル事件ハ頭取肝煎等コソニ記名調印スベキハ勿論ナレモ必ズ其取引所ノ名ヲ署

シ取引所ノ印ヲ捺スベシ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分テ必ズ現物

ノ受渡シヲ爲スベシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスベカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分

ノ五宛ニ下ラザル証據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等

ニヨリテハ追証據金増証據金等ヲ差入シムルヲ得ベシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至テハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續

ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スベシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ベシト雖モ其期日ニ至レバ必ズ

現物ノ受渡ヲ爲スベシ

第四十條 賣買主ニ於テ該証據金ノ差入ヲ怠リ又ハ期限ニ至テ其約定ヲ履行セザ

第廿五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルベシ

第廿六條 取引所ニ關係アル政府ノ官吏ハ其取引所ノ株主タルヲ許サズ

第廿七條 取引所ノ役員タル者其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人ト成ベカラス

第廿八條 取引所ノ役員及ビ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他人銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ズ

第廿九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又之ヲ賣買スベカラズ

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債証書及ビ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムベカラズ

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ゲタル營業保証ノ爲メ大藏省ヘ預クベキ公債証書ヲ除ク外自ラ諸公債証書株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スベカラズ

第三十二條 取引所ハ諸証據金ヲ使用スベカラズ又貸附金ヲナスベカラズ

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其証據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約ニ依リ相手方ニ於テ失ヒタル利得ト蒙タル損害トナ償ハシムルニ止マルベシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及

ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルコト依頼ヲ受ルト雖トモ其事情ヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願何届又ハ諸証書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コソニ記名調印スベキハ勿論ナレモ必ず其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スベシ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分テ必ず現物ノ受渡シヲ爲スベシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスベカラズ

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラザル証據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金増証據金等ヲ差入シムルヲ得ベシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至テハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スベシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ベシト雖モ其期日ニ至レハ必ず現物ノ受渡ヲ爲スベシ

第四十條 賣買主ニ於テ誤認証據金ノ差入ヲ怠リ又ハ期限ニ至テ其約定ヲ履行セザ

ル者及私ニ賣買ノ約定ヲ爲シ之ヲ公ニセザル者等ハ都テ之ヲ違約人ト爲スベシ

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ取引領スベキ手数料ハ(賣買雙方ヨリ)其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユベカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ至ツテ之ヲ收受スルヲ得ベシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 大藏卿ニ於テ要ト思考スルハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或其地方長官ニ達シテ其取引所ノ業体及金銀其他諸帳簿等ヲ検査セシムル事有ルベシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ大藏卿ノ差圖アルハ其差圖ニ從フベシ

第四十五條 取引所ニ於テ制定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ大藏省ニ届出ベシ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並ニ株主仲買人ノ姓名等大藏卿ノ指令スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスベシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムベシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實証アルハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三拾圓ヨリ少ナカラズ千圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科スベシ

第四十九條 検査官員ノ命ヲ拒ミ帖簿書類等ヲ差出サザルカ又ハ其疑問ニ答辨ヲ爲サザル者アルハ頭取又ハ其主任者ニ拾圓ヨリ少ナカラズ五拾圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科スベシ

(大藏省) 甲第十四號 五月九日

今般太政官第八號ヲ以公布相成候様式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大坂ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候筈ニ候條爲心得此旨布達候事

○物産之部

(太政官) 第十號 五月四日

明治七年(二月)第拾九號布告蠶種原紙規則同八年(三月)第四十七號同十年(四月)

第三十九號右規則中改正布告及同八年(二月)第三十貳號布告蠶種製造組合條例并蠶種製造組合會議局規則同年(四月)第六十五號條例追加同十年(五月)第四拾二號初度夏蠶種造方布告共廢止候條此旨布告候事

(內務省) 甲第十一號 五月六日

今般太政官第十號公布ノ趣キモ之アリ蠶種原紙規則廢止セラレ候ニ付テハ本年製造ノ蠶種ハ營業人共各自勝子ノ紙相用ヒ若シカラザル儀ハ勿論ニ候得共從前勸農局ニ於テ澆立候原紙買受方望ノ者ハ本年限リ左ノ價格ヲ以テ賣下候條來ル六月三十日限リ各所從前ノ蠶種原紙賣捌所へ申出買受候様致スベシ此旨布達候事

- 一 春蠶原紙千枚ニ付 金貳拾五圓
- 一 夏蠶其外用原紙千枚ニ付 金八圓

○遞報

○電信之部

(工部省) 第九號 四月廿九日

今般長野縣下信濃國上田マテ電信線落成來ル五月一日ヨリ同所電信分局ニ於テ通信取扱候條此旨布達候事

○博物

○博物品之部

(內務省) 乙第四十號 五月九日

府 縣

明治九年(一月)當省乙第八號布達博物館品物拜借人心得方條例第四條へ左ノ通包書追加候條此旨相達候事

第四條

製造物又ハ動物等ハ云々

但製造物ノ内返納ノ際點檢ノ上全ク損害ノ痕ナク手入ニ及ハサル品又ハ損所微少ナルモノハ代價三分一ノ内ヲ減シ或ハ悉皆免除スルヲアルベシ

(東京府) 甲第拾號 四月二十日

海軍省下士以下家族扶助金ノ儀ハ家族無之者へハ給與不相成等ニ付獨身者ノ内他ノ附籍トナリ又ハ他人ヲシテ本人ノ附籍トナシ候類有之共右扶助金ハ下付不相成旨同省ヨリ達越候條此旨布達候事

(東京府) 甲第拾壹號 四月廿五日

今般海軍省軍務局ニ於テ軍樂科通學生拾名檢査ノ上募集候旨左ノ廉書相添同省ヨリ達有之候條志願ノ者ハ來ル五月三十日迄ニ別紙書式ニ照準願書三通當廳へ可差出此旨布達候事

但檢査日限ノ儀ハ追テ可相達候事



軍樂科通學志願ノ者ハ別紙雛形ノ願書貳通東京府へ差出シ該府之レニ與書シ當省軍務局へ差出ス可シ

但軍律徒以上常様除族并ニ懲役實決一年以上ノ刑ニ處セラレン者ハ採用セサル者トス

一年齡十四歳ヨリ十八歳迄ノ者

一身體健康言語明亮書翰往復ニ差支ナキ者

一通學中ハ零服壹揃并ニ食料トシ一日金六錢宛チ支給ス

一奏樂ノ技ニ通シ樂生ヲ命スルキハ海軍定員タルヲ以テ家族アル者ニハ其日ヨリ

家族扶助トシテ一ヶ月金壹圓七拾五錢ツ、チ支給ス可シ

試驗法

第一期ノ試験ハ通學ノ日ヨリ滿六ヶ月目ニ之チ行ヒ第二期ノ試験ハ尙二ヶ月ノ後行フ者トス第一期ノ試験ニ及第スル者ハ樂生ヲ命ス若シ落第スル者ト雖ヒ第

二期ノ試験ニ及第スルハ乃チ樂生ヲ命スル者トス

第一期及第二期ノ試験ニ落第スル者ハ通學ヲ免スベシ (願書雛形畧ス)

(東京府) 甲第十二號 四月廿七日

太政官壹圓札以下並ビニ民部省金札ノ儀ハ明治十年三月大藏省甲第十四號布達ノ通り本年六月三十日限り通用停止相成候ニ付同月一日ヨリ同三十日迄別紙記載ノ

場所ニ於テ引換方取計ヒ候條右期限内現札持參交換致スヘシ此旨布達候事

(別紙)

第一大區十五小區巒町第一國立銀行 第一大區十四小區小舟町三丁目十番地第三國立銀行 第五大區四小區神田佐久間町壹丁目十九番地第四國立銀行支店 第一大區五小區駿河町五番地三井銀行

(大藏省甲第十四號十年三月廿八日)太政官民部省札一兩以下ノ分交換期限ノ

儀ハ本年六月三十日限り付此節ヨリ右交換着手可致處九州地方騷擾ニテ右期限

迄ニハ一般ノ取纏難相成候ニ付猶又明治十一年六月三十日迄延期候條右期限迄

ハ無差支通用可致此旨布達候事

(東京府) 甲第十三号 五月十一日

明治九年五月甲第三十三號布達(諸鑑札書換手数料徴収云々ノ件)但書左ノ通改正候條此旨布達候事

但手数料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢ツ、相納ムベシ尤モ當初手数料徴ザル分ハ書換ノ節ト雖ヒ別段上納ニ及ハス候事

(東京府) 甲第十四號 五月十三日

内務省甲第二號布達村市分合改稱等ノ別冊ハ區長へ下ケ渡シ置候條此旨布達候事

(東京府) 甲第十五號 五月八日

官令

東京裁判所各區裁判所共明九日ヨリ午前八時出頭午後第二時退出候ニ付訴狀等總  
テ午前第九時迄ニ可差出旨同廳ヨリ申來候條此旨布達候事

(東京府) 甲第十六號 五月十五日

管下伊豆國七島人民へ掛ル詞訟ハ自今築地區裁判所ノ勸解ヲ經由致ス可キ旨其筋  
ヨリ通達之アリ候條此旨布達候事

(東京府) 甲第十七號 五月十六日

湯屋鑄物職鍛冶職營業願及火葬場開設等ノ願ハ自今內部省警視局へ可差出此旨布  
達候事

(東京府) 甲第十八號 五月十七日

新聞紙雜誌雜報ノ諸願伺届等ハ自今東京警視本署ニ可差出此旨布達候事

(東京府) 乙第十二號 五月十六日 伊豆國七島ヲ除ク區戶長

本年(三月)乙第九號達左ノ通更正候條此旨可相心得候事

地租改正後ハ五ヶ年間地價可据置成規ノ處田畑山林宅地等其種類ヲ變換(田ヲ畑  
トナシ畑ヲ田トナシ山林ヲ宅地トナスノ類)スルキハ其都度別紙書式ニ照準可相  
届尤ニ其時々掛官員出張實地檢査ノ上地券面へ(何年何地成)ト朱書ヲ加ヘ下付候  
筈ニ付各區務所於テモ帳簿圖面等速ニ更正可致此旨相達候事  
但濱地開墾等ニテ大ニ地形ヲ變更スルモノハ従前ノ通出願ノ上許可ヲ受ヘキ事

(書式) 御 届

第何大區何小區何村(町)

何番地 郡村地ナレバ字ヲモ記スベシ

一田反別何程 畑 成

何番地 田 成

一畑反別何程 田 成

何番地 田 成

一宅地坪數(反別)何程 田(畑)成

同種類ノモノ二筆以上アルキハ小計通計ヲ載スベシ

右者私所有地々種變換致候ニ付此段御届申上候也

第何大區何小區

何村(町)何番地

年 號 月 日 何 某 印

(右區直管區長)戶長

何 某 印

東京府知事宛

(東京府) 乙第十三號 五月十六日 區 戶 長

官令

三田育種場種苗交換規則別冊ノ通勸農局ニ於テ相定候旨申來候條望ノ者ハ直ニ  
同場へ申出候様區內無漏可及論達此旨相達候事

三田育種場種苗交換規則

- 第一則 此規則ハ内外植物ノ種子苗木自由ニ交換セシメシカ爲ニ設ルモノニシテ畢竟有益ノ植物ヲ全國ニ普及スルヲ要旨トス故ニ不良ノ種苗ヲ以テ人ヲ騙瞞シ或ハ不當ノ價ヲ食ルヘカラス
- 第二則 各地ニ産スル種苗ヲ交換賣買シント欲スルモノハ誰人ニ限ラズ市場ニ出品スルコトヲ得ヘシ
- 第三則 出品ノ種苗ト共其收獲物製造品及其他農具類モ亦交換賣買スルヲ得ヘシ
- 第四則 開市ハ毎年兩次二月八月中ノ中旬ト定ムト雖モ若シ定期ヲ以テ出品シ難キモノハ必シモ此期月ニ拘ハラズ
- 第五則 出品ノ種苗ハ品名產地及ヒ數量ヲ記載シ定期ヨリ三四ヶ月前ニ於テ該場へ報告スヘシ若シ豫メ報告シ難キモノハ此限ニアラス
- 第六則 種苗ヲ請求スルモノハ遞送ノ時日ヲ計テ該場へ申出ヘシ但來場セズシテ請求スルモノハ先ツ品物ノ價格ヲ問ヒ其代價ヲ郵送シテ後遞送ヲ請フヘシ
- 第七則 品主自ラ來場セズシテ物品ノミ出スモノハ下ノ表式ニ照準シ表ヲ製シ品

物ニ添テ之ヲ遞送スヘシ

但種苗及ヒ郡村ノ名ニハ必ス傍訓ヲ付スヘシ

第八則 出品ノ交換賣買利餘ハ該場ニ於テ之ヲ賣リ代金ヲ品主ニ還付スヘシト雖品主自ラ之ヲ鬻キ或ハ之ヲ携歸スル等品主ノ隨意タルヘシ

出品表式

號	品名	產地	數量	通價	單數通價	出品人名

但培養法製造法ハ別ニ旨類ヲ添ヘシ

(東京府)

乙第十四號

五月二十日

區 戶 長

後備兵ノ者身元全戸他府縣へ寄留スルハ今後轉籍ノ者同様兵籍送達候等ニ付明治八年十月徵兵令第六章第九條ニ依準シ當廳へ願書可差出候  
常備兵服役中其身元ノ住所轉換候節ハ改訂徵兵令第六章第四條及參考第四十四條ニ依準シ本人ヨリ所屬ノ下士官へ可届出ハ勿論其父兄親戚ヨリ其都度當廳へ可届出等ノ處往々等閑ニ打過滿期解隊ノ節差支候條自今無遺漏届出候様可致候  
右ノ通相心得常備兵并ニ其父兄親戚ノ者へ可及示諭此旨相達候事  
(東京府達)

四月二十日

伊豆國七島ヲ除ク區戶長

府稅怠納等ニ付區務所ノ召喚ニ應セサルモノ有之不得止場合ニ於テハ最寄分署へ及通知巡查ヲシテ本人召致セシメ又ハ怠納者處分等ノ際區吏該家ニ臨ミ巡查ノ立合ヲ要スル場合ニ於テモ前同様直ニ分署へ及通知候儀ト可相心得此旨相達候事  
但本文ノ場合ニ於テハ其顛末可届出事

(東京府達)

五月十三日

區 戶 長

海軍徵募水兵出京途中ニシテ明治十年(十一月)當廳乙第九十九號達徵募旅費概則第三條ニ適セサルモノト雖モ其事情不得止者有之金圓貸渡候節ハ其事由ヲ詳記シ區戶長捺印ノ上速ニ當廳へ可届出此旨相達候事

(東京府達)

五月十三日

朱 引 內 區 戶 長

市街宅地田畑地租改正ノ儀過般申出ノ價額ヲ以テ明治九年後半年分ヨリ新稅施行相成候條此旨相達候事

東京府勸業課報告

五月十八日

紅茶製法傳習規則ノ儀內務省本年甲第一號達シノ趣キモ之ノアリ候處此際濫製ノ紅茶等賣捌候者之レ有リ候テハ大ヒニ外人ノ信用ヲ失ナヒ正路ニ製造候者迄モ之カ爲ニ失敗ヲ招キ畢竟御國益ノ進路ヲ妨害候事ニ付府下紅茶製造者ハ勿論商業者ニ於テモ濫製ノ品取引致ササル様厚ク注意致スベシ此旨報告ス

(內務省甲第一號號布達ハ類聚本年第二號二十九丁テ參照スヘシ)

### 內務省日誌

自 第三號  
至 第四號

○職務章程之部  
第四號 島根縣伺

二月八日

管内伯耆國々幣小社大神山神社宮司ヨリ別紙ノ通り職務ノ儀ニ付伺書差出候間即チ及進達候也(別紙)昨十年第九十一號公達ヲ以テ神官被廢更ニ職員官等被定候ニ付テハ別紙條款ノ趣如何可相心得哉此段奉伺候也

明治十一年二月二日

大神山神社宮司佐々木喜蔭

內務卿大久保利通殿

別紙 第一條 禰宜ハ次官ノ心得ヲ以テ舊權宮司ノ事務ヲ取扱ヒ可然哉

內務省日誌

第二條 願屆ハ従前權宮司連署候通り自今宮司禰宜連署スヘキ哉就テハ舊教部省六年十一月番外八年一月甲第一號同年三月甲第三號御達中長次官ト有之ハ自今宮司禰宜ト相心得可然哉 第三條 舊教部省六年十月番外八年十二月甲第十六號御達中次官以下トアルハ禰宜以下ト相心得可然哉 第四條 官祭ノ節ハ宮司所勞忌引或ハ不在等ニテ差支候節ハ其旨地方廳へ申出最密ノ官社宮司禰宜ノ内ニテ兼務致シ可然哉 第五條 奉務規約ノ備減員相成候ニ付テハ一社限り改正ノ上御届ニ及ヒ可然哉 第六條 與宮奉仕看護ノ儀詰合ノ人員等御規則可有之哉或ハ一社ニ於テ方法相立其旨御届ニ及ヒ可然哉

(指令) 十一年二月二十日 第一條 従前同様に宜同様にシテ第二條 宮司一名タルヘシ尤會計事務ニ付主任連署ノ成規アル者ハ従前ノ通〇第三五條 伺ノ通 第四條 宮司不在ノ節ハ禰宜又ハ主典ニテ代理苦カラス〇第六條 見込相立テ伺出ヘシ

#### 〇任免之部

第四號 山形縣伺 一月二十五日 第一條 巡查懲罰例ニ照シテ免職ノ者滿二年以内再願スルキハ採用致サス可然哉 第二條 法律ニ依テ身代限リノ處分ヲ受ケシ者巡查志願ノ節ハ採用致シ可然哉 右兩條相伺候也

(指令) 十一年二月十九日 第一條 二年以内ト雖モ採用苦シカラス

第二條 採用不致儀ト心得ヘシ

#### 〇服制之部

第三號 愛知縣伺 一月二十一日

第一條 明治十年御省日誌第十六號埼玉縣伺警部制服ヲ禮服ニ略服ヲ制服ト改メ云々へ伺ノ通ト御指令有之當縣ニ於テモ同様ニ相心得可然哉

第二條 巡查制服へ隠シノ付ケ所ハ成規モ無之ニ付服ノ内外便宜ノ處へ付ケ不苦哉

第三條 巡查制服着替ノ爲メ私費ヲ以テ一ト通り調製致度 日出願候者有之右ハ官ノ徽章モ有之私ニ調製スル儀ハ不相成哉 右件々相伺候也

(指令) 十一年二月十五日 第一二兩條伺ノ通 第三條 私費製調差許シ苦シカラズ候事

第三號 島根縣伺 明治十年十二月三日

有位ノ神官教導職位階ノ等級ニ拘ラス何様ノ衣冠相用候共不苦哉無位ノ神官教導職ニ於テモ官等ヲ問ハス従前叙爵ノ家柄ヲ論セス何様ノ衣冠相用候共不苦哉相伺候也

(指令) 十一年二月十六日 書面伺ノ趣神官教導職ノ内有位ノ輩ハ其位階相當ノ衣冠可相用無位ノ者ハ渾テ淨衣狩衣直垂着用可致儀ト可心得事

(第四號) 青森縣伺 明治十年十二月十一日

第一條 明治六年第四十一號公布從前ノ衣冠ヲ以テ祭服ト可致旨被 仰出候處衣冠所持無之輩ハ狩衣直垂淨衣等相用候儀不苦ト有之右ハ神官率士族平民共一般相用不苦哉 但麻上下并通常禮服ヲ以テ換用スルハ不相成哉 第二條 神官并率士族平民共自家神祭及ヒ神道葬儀ノ節其戶主ハ勿論家族親屬等總テ祭儀ニ關スル者祭服并右種類ノ服ヲ着シ昇夫等ハ白丁ヲ用ヒ不苦哉 第三條 縣鄉村社祭典ノ節參詣ノ者共祭服ヲ着シ不苦哉 右件々相伺候也

(指令) 十一年二月十九日 第一條第二條伺ノ通○第三條祭服着用スヘカラス

○法令之部

第三號 兵庫縣伺 一月二十八日

明治八年司法省達第十五號裁判支廳假規則但書ニ右假規則管内ヘ施行ノ節ハ現今向後共本廳ヨリ一般布達可致云々ト有之是ニ由リテ之レヲ觀シハ裁判所ヨリノ布達ハ右一項ニ限リ其他裁判所開閉廳時限判事任免人民喚出狀郵便稅ニ關スル事ノ如キハ地方廳ヨリ布達致候方允當ニ可有之哉相伺候也

(指令) 十一年二月九日 書面裁判所長ヨリ管内ヘ可相達ハ裁判廳規則及ヒ

出訴以上ノ事務ニ限ルヘシ其他裁判所開閉廳時限等ノ類ハ裁判所長ヨリ地方廳ヘ照會ニ及ヒ候節ハ地方長官ノ名ヲ以テ布達可致儀ト可相心得事

○制度之部

第三號 大分縣伺 一月十日

銃砲取締規則中免許商人之外賣買難致儀ニ相見候得共縣下ニ於テハ右免許商僅ニ三員ノミニテ遊遠村落ノ小民ヨリ近隣ノ者ヘ相對賣渡等モ該規則ニ依リ候テハ多少失費モ相掛リ憫然ノ至ニ付右等ノ如キハ商人ノ手ヲ不經直ニ當廳ヘ出願爲致可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月四日 書面伺ノ趣相對賣渡ハ免許商ヲ經ルニ及ハス規則

第五則ニ依リ第二則ノ手續ニ從ハセ候儀ト可相心得事

○刑事之部

第四號 三重縣伺 明治十年十二月廿七日

御省日誌明治九年第四十六號大坂府伺懲役第一等ニ進ム役囚官ヨリ賜暇并ニ疾病ニ罹リ休役スル日ノ日給ハ給與セス食費ハ官費ニ相立テ可然哉ニ官費支給難相成候事ト御指令有之然ルニ本年第十九號靜岡縣伺傭工錢ノ中ヨリ附與ス可キ金員云々本犯親族ノ貧窶ヲ察シ有金差贈度旨申出候節ハ聞届不苦哉ニ伺ノ通ト御指令有之依テハ本犯ノ情願ニ任セ附與ス可キ金員ヲ親戚ニ下附スル後若シ疾病等コトテ服役スルコト能ハサル節食費ノ補ヒ方無之官費支給モ難相成且二等役囚以下ノ雇工錢ヲ以テ補足スルモ穩當ナラサル様存候果シテ然ラハ役囚滿期ノ節ニ無之テハ剩

餘不足ヲ決算シテ付與スハキ金員ニ確定シ難キハ勿論ナレ共其親族ノ貧乏ヲ察シ  
付與ス可キ金員差贈度申出ル節ニ限リ其月迄ノ剩餘ヲ決算シテ之ヲ下附シ其後萬  
一服役スルノ能ハサル等ニテ食費ヲ補フ能ハサル者ハ官費ヲ以テ支給スル儀ト相  
心得可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月廿一日 書面伺ノ通 但病氣償役ノ儀ハ成規ノ通可相心得事  
第四號 兵庫縣伺 二月七日

本年乙第一號御達製表心得第三項ニ(二二五二)ト記載有之ハ譬ハ強盜現員五十二人  
ナレハ五十二ト掲ケ而シテ内三十二人自首セスシテ二十人自首セハ未ニテ其下  
二ト掲ケル儀ニ可有之哉相伺候也

(指令) 十一年二月二十一日 書面伺ノ派警ヘハ持兇器強盜ノ自首セサル者三  
十二人又自首スル者二十人ナルルハ(二三二)此ノ如ク記載スヘシ  
第四號 兵庫縣伺 二月二日

懲役人病ニ罹リ保責中醫師ノ申立ニヨリ數十里外ノ地ニテ湯治致シ度旨出願候者  
有之差許可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月二十五日 書面伺ノ如キハ醫師ノ診斷確實ナレハ聞届不  
若候事  
○職務罰例之部

第三號 愛知縣伺 一月二十一日

明治九年御省乙第九十二號御達巡査懲罰例第三條ニ凡罰金未タ完納セサル中免職  
死亡等ニ係ル者ハ追徴スルヲ免ズト有之然ルニ罰金未タ完納セサル中同縣又ハ  
他府縣屬官及ヒ警部或ハ等外準官吏ニ轉移スルルキハ新官月給額ヨリ追徴可然哉相  
伺候也

(指令) 十一年二月十六日 書面ノ趣舊新官等ニ照シ其俸給寡キニ從ヒ追徴  
可致事 但俸給民費ニ係ル准官吏ヘ轉スル者ハ追徴ノ限ニ非ス

○典籍之部

第四號 山梨縣伺 二月十四日

第一條 御省發兌出板例纂(百三十三葉)大坂府伺凡人物山水等ノ景色ヲ寫真スル  
ニ既ニ甲ハ板權免許ヲ得ルモ乙者ニ於テ尙ホ同様ノ人物山水ヲ寫真シテ發賣スル  
モ復寫ニ非カレハ差構ナキ哉ヘ伺ノ通ト御指令有之然ルルキハ乙者ニ於テ尙ホ板權  
出願候共御免許可相成哉

第二條 官民所有ノ建物庭園等ヲ寫真シテ板權ヲ得ント欲スルニハ該官廳又ハ所  
有主ニ於テ承諾スルニ非カレハ出願不相成哉 右兩件相伺候也

(指令) 十一年二月十九日 書面伺ノ趣第一條ハ大坂府ヘ指令ノ通  
第二條ハ建物庭園等ノ所有者ノ承諾ニ及ハサル儀ト可相心得事

○賣藥之部

二月五日

第四號 新潟縣伺

第一條 賣藥規則第五條云々其管轄廳へ願出免許鑑札ヲ受ケ管轄廳ハ御省へ可届出ト有之ハ勘定帳上申ノ節可申出哉 第二條 同第十四條賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スルキハ其由ヲ記シ管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシト有之右ハ最前付與シタル鑑札ノ年號月日ヲ記入下渡シ鑑札料ハ規則第十七條ニ照準シ半高テ徵收スヘキ哉 第三條 爰ニ請賣者アリ其營業人他管ニシテ該藥ノ禁廢或ハ讓渡等有之節ハ御省ヨリ其都度請賣者へ御達可相成哉 右件々相伺候也

(指令) 十一年二月二十五日

第一條 届方ノ儀ハ行商鑑札同様明細簿ヲ制シ一月七月兩度ニ取纏ノ可差出事○第二條 請賣者名前書換ノ節ハ最前ノ年月日ヲ記入シ鑑札裏面ニ何年何月日何誰ヨリ相續ニ付書換ト朱記シ主任檢印ヲ捺シ下渡スヘシ尤鑑札料ノ儀ハ全額徵收候儀ト可相心得事 但營業鑑札書換ハ當省へ可差出事○第三條 賣藥營業者禁廢或ハ讓渡等有之節ハ營業人ヨリ其請賣人ニ直ニ通知可爲致儀ト可相心得事

○海關之部

第三號 兵庫縣伺 一月十四日

山口縣管下第十六大區八小區吉母村新田助九郎所有之漁船ニ同人外六名乘組誤業之爲メ出航候處客歲十月十日筑前國白島沖合ニ於テ暴風激浪ニ遇ヒ船体破壊ニ及ヒ困難中佛國軍艦ヲクロシユトリ一號下關近海航行ノ際其困難ヲ認メ救援スルニ付乗組人ノ内鹽田金藏ハ既ニ死亡ノ趣ニテ死體並被救人共同艦ヨリ受取仮埋葬取計其旨御省及外務省へモ及御届置候處右埋葬費用ハ内國船難破及漂流物取扱規則第十一條第六項ニ照準可然哉果シテ然ラハ其賣拂へキ物品無之ニ付同規則第十五條ニ準據官費支給可然哉將テ原籍分明ナル行旅病死倒死等仮埋葬費仕拂方ニ照準シテ其原籍ヨリ償却セシメ可然哉右ハ同規則中原籍明ラカナル溺死人トノ埋葬費用償却區別明文無之ニ付相伺候也

(指令) 十一年二月二日 書面伺ノ趣ハ内國船難破漂流物取扱規則第十五條ニ照準處分候儀ト可相心得事

第三號 大分縣伺 一月十二日

明治八年第六十六號公布内國船難破及漂流物取扱規則第三拾條新聞紙ヲ以テ公告スルノ費用ハ一時操替仕拂置キ追テ持主ヨリ爲相償若シ三箇年ヲ過キ持主不相知片ハ官収金ノ内ヨリ戻入可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月四日 書面伺ノ通可取計事

○戶籍之部

內務省日誌



第三號 千葉縣伺 明治十年十二月廿七日

本年第九十五號ヲ以テ犯罪決放ノ者及ヒ脱籍無産ノ輩遞送ノ儀公達有之候處其本籍へ復歸テ望ム者ノ内金錢所持セス歸途ノ旅費ニ差支候者ハ縣廳ニ於テ適宜其旅費ヲ操替貸渡シ不苦哉相伺候也

(指令) 十一年二月八日 書面伺ノ趣本籍へ復歸ヲ望ム者無力ナルキハ昨年太政官第九十五號達但書ニ依準シ便宜使役シ工錢蓄積ノ上復歸セシムル儀ト可心得事

第三號 兵庫縣伺 明治十年十二月廿七日

男女アリ私通シテ妊娠ス結婚夫妻トナルノ後ニ至ツテ分娩スル兒子ハ嫡子タル可キ哉或ハ庶子タル可キ哉相伺候也

(指令) 十一年二月十八日 書面伺ノ趣夫妻結婚ノ後出生ノ兒ハ嫡子タル可キ事

○租稅之部

第三號 初木縣伺 一月廿九日

明治十年第七十九號公布租稅未納ノ者處分方第三條府縣稅民費モ此規則ニ準シテ處分スヘシト有之石民費トハ區長給料全額及ヒ學區取締給料警察師範學校費等ノ内其幾分ヲ縣廳ヨリ全管内戸教人口或ハ舊石高等へ賦課徵收スヘキ分ハ勿論其他

之區村費迄ノ儀、相心得可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月十三日 書面伺ノ趣公義務タルヲ以テ人民ニ賦課シ得ヘキ者ニシテ區長又ハ戶長ノ職務ヲ以テ取扱者ハ區村費ト雖モ民費ト相心得客年第七拾九號公布ニ據リ處分可致事

○勸業之部

第三號 山梨縣伺 一月廿三日

今般甲第一號ヲ以テ紅茶製法傳習規則御頒布ニ付左ノ條件相伺候

第一條 向來茶繁殖ノ見込アルニ依リ縣廳ニ於テ卒業生ヲ雇入ノ傳習所ヲ設ケ管下篤志ノ者へ傳習致シ可然哉 第二條 傳習ニ志アルト雖モ貧窶ニシテ資力ナキ者ハ卒業ノ上本縣傳習所ニ從事シ追々返辦ノ約ヲ以テ縣廳ヨリ其傳習費ヲ貸渡スモノハ請ヒニ依リ必ス本縣へ派遣ノ儀御允可々相成哉

(指令) 十一年二月七日 第一條伺ノ通○第二條伺ノ通○但請ニ不及候事 第四號 岐阜縣伺 明治十年十二月廿七日

當縣管下ノ儀内國通運會社ノ外物貨運輸人馬繼立稼業ノ者無之候處人民中類似ノ所行有之該社營業ノ妨碍ニ相成候趣ヲ以テ追々苦情申出今般尙又布達方ノ儀別紙ノ通り願出候右ハ可成該社ノ專業ヲ擴張セシメ公私ノ便利ヲ開キ候様保護致度心得ニ候得共右申立ノ如キハ採用致シ難ク相見へ且擬義ニ有之左ニ相伺候也(別紙

除之

第一條 明治六年第二百三十號御布告ノ趣有之候ニ付テハ水路運送ノ儀ハ他人ノ  
依託ニ依リテ多分ノ物貨ヲ引請ケ遠隔ノ地へ運送方取扱候者ハ右公布ニ照準シ  
遞局ノ許可ヲ得ヘキ儀ニ候得共會社等ノ手ヲ經ス諸方ノ荷主ヨリ自ラ直ニ物貨ヲ  
引請ケ或ハ各地運輸會社等ノ荷物ヲ引請ケ運漕致シ候等ノ船乘稼ノ儀ハ驛遞局並  
管轄廳へモ出願ニ及ハス且通運會社へ附屬又ハ同社荷物辨償ノ一分ヲ擔負セン爲  
メ約定書差出候等ニモ及ハサル哉 但明治八年第二百三號公達府縣事務章程下款  
第三十九條ハ運輸業ヲ許可スル儀ニハ無之明治七年第二十一號及ヒ明治八年第二  
十七號公布ニ依リ舟車檢印ノ願ヲ許可スル儀ニ可有之哉

第二條 驛村ニテ相稼候車夫馬子人夫等荷主相對テ以テ遠近ノ地へ運搬スル者ハ  
成ヘク通運會社へ附屬シ或ハ別派營業願出穩當ニ相稼候様申付ヘク儀ニ可有之候  
得共若シ肯シセシテ自己相對テ以テ依然相稼候者ハ仮令運輸專業ノ妨碍ニ相成  
候共差止ヘキ筋ニ有之間敷哉

第三條 時々他所へ往復スルヲ業トシ數箇ノ出入先キ又ハ惡意ノ向キ等ヨリ荷物  
ヲ引受ケ運送スル分ハ飛脚渡世ニ類似シ明治六年第二百三十號公布ニ抵觸候様相  
見候得共荷主一名ノ物品ヲ引受ケ毎時某地へ運搬致シ候分ハ雇人ト看做シ該公布  
ニ抵觸セサル儀ト相心得可然哉 第四條 人馬車夫等ノ内繼立所ノ手ヲ經ス相對

ヲ以テ荷物ヲ引受ケ遠隔ノ地へ運送スルニ付途中ニ宿泊又ハ自宅ニ留置候等ノ類  
有之其内自宅へ預リ候儀ハ自然許可ナシテ人馬繼立ノ業ヲ營ニ候姿ニ可相成モ  
難計候得共他人馬車夫等ヲ使役セス各自之ヲ引受ケ運搬致シ候分ハ是又差支無  
之哉 第五條 別紙書面中ニ人力車夫等相對ニテ荷物ヲ引受ケ人力車ヲ以テ荷車  
ニ代用候儀差止相成度意ニ相見候得共人力車ヲ以テ物品ヲ運搬候ハ素ヨリ可差止  
筋ニ無之哉 第六條 人足或ハ車夫等各自ニ相稼候儀ハ勿論數名組合ヲ定メ荷主  
相對テ以テ諸種ノ荷物ヲ引受ケ一市内又ハ隣村等へ運搬候儀ハ物貨運輸人馬繼立  
等ノ類ニ異リ公布并御省御布達等ニ抵觸セス無願營業候共苦カラス又通運會社等  
ヨリ之ヲ拒ム權利ニ無之哉

(指令) 十一年二月十九日

第一條 水路ノミヲ限リ運送營業候者ハ六年二百

三十號公布ニ關涉不致候得共水陸ヲ通シ運送ヲ兼ル者ハ荷主ノ依託ニ寄リ遠隔ノ  
地へ多分ノ物貨回漕候上ハ二百三十號公布ニ照準可致又官許會社等ノ物貨ヲ引受  
ケ回漕營業候者ハ其會社擔當ノ物品ヲ更ニ協議ノ上取扱候儀ニ候別段願出ニ不及  
候事 但書府縣事務章程下款第三十九條ハ管内一市一村若クハ一部内ニ於テ運輸  
便宜ノ爲メ舟車營業ノ願ヲ許可候儀ト可心得事○第二條 同ノ通リ尤モ成ヘク專業  
者ノ妨得不相成様處分可及事○第三條 同ノ通○第四條 長途運送ノ儀ハ六年第二百  
三十號公布ニ準據可致候得共近傍一部内ノ運輸ニ候ハ、同ノ通 第五條 第六條

伺ノ通

○遺失之部

第四號 山梨縣伺

明治十年十二月廿七日

本月十日附テ以テ官ノ物品中ニ混在スル遺失物ヲ發見シタル時ノ處分方相伺候處  
同十九日御指令ニ官物取扱ノ際發見候ハ官廳内得遺失物ト同一ニ處分スヘシト有  
之候得共官廳内得遺失物ノ規則ハ曾テ御達等無之様存候間再應相伺候也

(指令) 十一年二月十九日

書面伺ノ趣官廳内遺失物ハ一ケ年間領置シ物主

ナキハ官沒スヘシ

○地券証書之部

第三號 長野縣伺

明治十年六月十四日

本年五月二十二日付テ以テ地主死失或ハ退轉セシモノ相續人相定リ候迄其地所ヲ  
預リ居候者地券證書換願出候節券狀面書式ノ儀相伺候處御指令ニ地券証書ハ相續  
人相立候上書換可相渡云々ト有之然ルニ同三月十九日附伺ハ御指令ニ一家死亡跡  
ノ儀ハ直チニ相續人相立可申若シ相續人無之時ハ其家斷絶候儀ニ付三十六箇月ヲ  
待タズ遺留財産ハ入札拂云々尤目今相續人無之ニ付追テ撰定致ス迄遺留財産ヲ保  
管致シ度旨親族協議ノ上申出候ハ、聞届候儀ト有之右兩條御指令ノ趣ハ親族又ハ  
組合等ニテ協議ノ上保管致シ度旨申出ルニ於テハ死亡成ハ退轉ノ日ヨリ起算シテ

三十六箇月(一ケ月三十日ノ積)未滿ノ期限迄ハ聞届最前相渡シ候儘ノ券狀(死亡  
或ハ退轉人ノ名面)ニテ其地所ト共ニ親類組合等ニテ預リ置キ不苦儀ト相心得可  
然哉相伺候也

(指令) 十一年二月十六日

書面伺ノ趣保管ノ期限ハ無之跡相續人ヲ撰定ス

ル見込有之分ハ三十六ケ月外ト雖モ聞届苦シカラス券狀ノ儀ハ其儘親戚ニテ預リ  
置キ地券臺帳へ其旨可記載事 但組合ヨリ保管致シ度申立ル筋ハ無之儀ト可心得  
事

○會計支収之部

第三號 山形縣伺

一月二十三日

明治十年御省乙第十七號達但書ニ官民ノ區別ヲ立テ該廳限リ適宜可取計趣有之縣  
廳ノ見込ヲ以テ豫防方法ヲ施行スル所ノ費用ハ官民ノ區別ヲ立ッヘキ筈ノ處右官  
費ニ屬スル分ハ孰レノ費途ヨリ支消取計可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月十四日

書面伺ノ趣ハ別途費金下付不相成候條平常施行

之振合ヲ以テ處分候儀ト可相心得事

第四號 愛媛縣伺

明治十年十二月廿五日

巡查筆墨料ノ儀ハ是迄一ケ月金七錢三厘ヲ以テ適宜給與候處本年四月以降第四課  
書記事務ニ限リ一ケ月金十二錢五厘支給可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月十九日 書面巡查へハ筆墨料支給不相成証條書記事務ノ者へハ現品ヲ以テ相渡候儀ト可心得候事

第四號 宮城縣伺 二月六日

巡查職務ニ關係ノ公布公達并縣限リノ諸規則共編集附與ノ代價警察乙號費ヨリ支辨可然哉或ハ巡查懲罰金同被服類賣却代及ヒ獻金賣淫罰金等ノ内ヨリ支拂相立テ支出ノ金額ハ懲罰金同様御届致シ可然哉相伺候也

(指令) 十一年二月二十二日 書面諸規則編集附與ノ代價ハ巡查懲罰金同被服類及ヒ警察所備付不用物品賣却代又ハ獻金等ヲ以テ仕拂尙ホ不足相立候節ハ賣淫罰金ノ内ヨリ支辨不苦儀ト可心得事 但支出ノ金額届方ハ伺ノ通

○特典之部

第六十貳號 一月十一日

群馬縣

(第七百三十三) 前非悔悟能ク獄則ヲ守ル懲役人特典減等伺

本縣監獄主任警部ヨリ懲役囚須藤豊次郎外壹人處刑以降先非ヲ悔悟能ク獄則ヲ守リ衆囚ヲシテ悔悟心ヲ發達セシムルノミナラス同役囚ノ逃走セントスルヲ探リ遂ニ捕得スルニヨリ特典ノ儀別紙(略之)ノ通申出事實相違無之相聞候ニ付格別ノ御詮議ヲ以テ本罪減等相成候様致度至急仰御指令候也

(指令) 一月十八日 伺ノ趣懲役人須藤豊次郎外壹名特典ヲ以テ各本罪ヨリ一等

ヲ減ス

指令錄刑事

第六十貳號 一月十四日

茨城縣

(第七百三十五) 失火消防ニ盡力シタル懲役人特典減等伺

明治五年五月十日宣告

常陸國信太郡下高津村平民

一 懲役十年

池邊善兵衛

詐僞律

外廿三名

右ノ者共儀陸前濱街道坂路爲修築管下常陸國新治郡下稻吉村へ假監取設ケ就業爲致置候處昨十年十二月廿二日午後第五時終役歸路途中同村平民木村新兵衛宅裏竈場ヨリ失火突然熾上リタルヲ右役囚早クモ聞知シ守主獄丁宮脇正誼指揮ニ從ヒ速ニ驅付消防盡力致シ仍テ他家へ延燒ノ憂ナク鎮火相成殊勝ノ旨ヲ以減等方別紙ノ通掛リ擔任ノ者ヨリ申出候間取調候處事實相違無之相聞他因ノ模範后来ノ獎勵ニモ關係仕候間特別ノ御詮議ヲ以テ各本罪輕減相成候様仕度書類(略之)相副此段相伺候也

(指令) 一月廿一日

伺ノ趣懲役人池邊善兵衛外二十三名特典ヲ以テ各本罪ニ

一等ヲ減ス但役限已ニ過ル者ハ適宜賞與ス可シ

第六十貳號 一月十六日

東京裁判所詰檢事

(第七百三十六)

同囚ノ縊首ヲ救助シタル懲役人特典減等伺

伊豆國君澤郡三宿金谷町當時懲役人

持兇器強盜ノ科ニ依リ明治十年

宮田 佐平

十一月二十六日懲役終身

三十年

右ノ者儀持兇器強盜ノ科ニ依リ頭書ノ通處刑相成候處右犯罪未決在檻中昨明治十年七月廿三日午後十時過同囚西澤總左衛門ノ縊首セントスルヲ見認メ直ニ救助スル廉ヲ以減等ノ儀別紙ノ通櫃倉署長代理ノ具狀書ヲ添警視本署ヨリ申立右ハ人命救助ノ段奇特ノ事ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ度仍テ別紙書類(略之)相添此段相伺候也

(指令) 一月廿一日

伺ノ趣懲役人宮田佐平特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第六十貳號

一月十四日

愛知縣

(第七百四十) 悔悟ノ實効アル懲役人特典減等伺

明治五年二月十七日宣告

三河國寶飯郡國府村

偽造寶貨懲役十年

白井市左衛門

右ノ者明治五年十一月額田縣被廢其砌當縣へ引渡テ受ケ爾來就役罷在候處該囚資性謹敷温和ニシテ能ク獄則ヲ奉守シ多年ノ間一モ教令ニ違フコトナク殊ニ先非テ悔悟悲歎シ且工役ニ勉勵スル而已ナラス明治九年八月懲役人多勢暴動ノ舉ニ當ルモ確志黨與セサル一人ニシテ看病夫ニ從事セシムルハ懇切看病行届キ始終ノ動作實ニ他囚ノ標準ニモ相成頗ル奇特ノ者ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減度依テ係官

指令錄刑事

吏ノ上中(累之)相添此段相伺候也

(指令) 一月廿四日 具申ノ趣懲役人白井市左衛門特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第六十三號 一月十六日

山口縣

(第七百四十七) 逃走囚ヲ捕得シタル懲役人特典減等伺

山口縣第一大區六小區東久賀村平民

明治六年八月十八日強姦ノ科ニ依リ

竹田 久兵衛

懲役十年ニ處セラル

同縣第二十大區十三小區山田村平民

明治十年四月四日竊盜ノ科ニ依リ

前田 祥之助

懲役二年半ニ處セラル

同縣第九大區五小區三田尻町平民

德兵衛次男

明治七年十二月三日監守盜ノ科ニ依リ懲役十年

井原 庄七

ニ處セラレ明治十年十月十六日特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ

同縣第一大區六小區東久賀村平民

新田 甚助

明治六年八月十八日強姦ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラル

右ノ者共儀頭書ノ通懲役處刑中昨明治十年十二月廿五日同囚岸田保次ノ外役先

リ逃走スルヲ追捕トシテ獄丁ニ隨從各地搜索遂ニ能ク捕獲セシ者ニテ奇特ノ事ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減セラレ候様致度依テ掛吏員申立書本人口供共(畧之)相添此段相伺候也

(指令) 十一年二月二日

伺ノ趣懲役人竹田久兵衛外三名儀特典ヲ以テ各本罪

ニ一等ヲ減ス

第六十三號 一月十九日

三重縣

(第七百四十八) 溺死セントスル者ヲ救援シタル懲役人特典減等伺

當縣伊勢國一志郡松崎浦

明治十年五月廿六日詐僞取財ノ科ニヨリ懲役八年

森 雄之助

三十六日ニ處セラル明治九年十二月未決檻中暴動

三十三年八月

放火ノ際消防ニ盡力シタルヲ以テ明治十年十月廿

外四名

四日本罪ニ一等ヲ減セラレ改メ五年三十六日

右五名ノ者共明治十年十一月廿九日外役先ニ於テ山田吹上町永田文次長男幸三郎(四年八月)ナルモノ一本木川ニ墮墜シ殆ント溺死セントスルヲ救援シ蘇生ヲ得セシムル段殊勝ノ儀ニ付外囚獎勵トモ可相成間特典ヲ以テ各本罪上ニ一等減セラレ度別紙(畧之)懲役場詰警部及ヒ守卒申立書本人口供相添此段具申ニ及候也

(指令) 十一年二月二日

具申ノ趣懲役人森雄之助外四名特典ヲ以テ各本罪

一等ヲ減ス

第六十三號 一月二十一日

(第七百四十九) 悔悟ノ實効アル懲役人特典減等伺

明治四年十二月廿三日宣告

信濃國水内郡間御所村平民

準流十年 但贖札行使スル科

小林 助太郎

右ノ者義奮中野縣於テ頭書ノ通處刑相成入場以來能ク獄則チ守リ行狀衆囚ニ卓絶シ日ニ無怠慢工藝ニ心ヲ盡シ其余暇學事ニ碎心入場ノ砌ハ更ニ一字ノ辨別ナキ者ニ有之候處益憤勵致候ヨリ方今讀書習字等他囚ニ教授セシムルニ至ルヲ以テ世話方申付置候處在場ノ久シキモ更ニ其本質ヲ變更セズ殆ント一日ノ如ク實ニ悛悔ノ色表ニ顯ハレ其心操他囚ニ染化シ獎勵ノ規範トモ可相成ニ付未タ一等役ノ半ヲ經過セスト雖モ數年間百事ニ精勵致シ殊勝ノ者ニ付特典ヲ以テ相當ノ御處分相成度此段相伺候也

(指令) 十一年二月二日 伺ノ趣準流人小林助太郎特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第六十三號 一月三十一日

大坂裁判所檢事局

(第七百五十五) 同囚ノ井中へ陥リタルヲ救援シタル者特典減等伺

大坂府第三大區五小區薩摩堀東町

壹丁目櫻井屋重兵衛手代懲役人

長野縣

明治五年四月十八日大坂府ニ於テ

丸屋 喜兵衛

奴婢盜家長財物律ニ依リ準流十年

同府第一大區四小區平野町

二丁目平民

懲役人

明治八年九月三十日大坂裁判所ニ於テ

岡田 重兵衛

偽造寶貨律ニ依リ懲役三年ト三百四十日

同府第三大區九小區南堀江上通五丁目

平民五兵衛長男當時脱籍懲役人

明治八年七月十四日大坂裁判所ニ於テ 五島 吉三郎

竊盜律ニ依リ懲役十年

右三名ノ者去ル明治十年十月二日懲役人川寺龜吉誤テ井中へ陥リ絶命ニ及ハントナルヲ救護致シ功勞アル者ニ付特典ヲ以テ本罪上ニ一等ヲ減セラレ候様致度一件書類(略之)相添乞救典候也

(指令) 十年二月八日 上申ノ趣懲役人丸屋喜兵衛外二名特典ヲ以テ各本罪

ニ一等ヲ減ス

第六十三號 一月三十一日

大坂裁判所檢事局

(第七百五十六) 同囚ノ縊死セントスルヲ救援シタル懲役人特典減等伺

指令錄刑事

大坂府下第四大區二小區船大工町

當時懲役人

山下 元次郎

明治八年二月十日大坂裁判所ニ於テ  
強盜ニ隨行スル科ニ依リ懲役七年

全府下第一大區四小區高麗橋二丁目

三井元之助名代石井與三郎雇人愛知

縣下尾張國海東郡日置村農同

明治九年三月十日大坂裁判所ニ於テ

横井新右衛門

監守盜ノ科ニ依リ懲役九年ト三百六十日

全府下攝津國第九大區三小區

島上郡富田村平民 同

明治八年十二月廿日大坂裁判所ニ於テ

笹井 治三郎

詐欺取財ノ科ニ依リ懲役十年ノ所同牢

ノ破獄ヲ企テツルヲ首報シ時籍ヲ致サ

ル事ヲ得ルニ依リ一等ヲ減シ同七年

全府下第二大區一小區難波新地

三番町平民イト長男 同

明治八年九月廿八日大坂裁判所ニ於

鮎谷 松之助

テ竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年

右四名ノ者共明治十年九月廿三日同囚生田健次郎監内ニ於テ首縊致シ絶命ニ及ハ

ントスルヲ救護致シ功勞アル者ニ付特典ヲ以テ本罪上ニ一等減セラレ候様致度一

件書類(畧之)相添乞赦典候也

(指令) 十一年二月八日 伺之趣懲役人山下元次郎外三名特典ヲ以テ各本罪上

ニ一等ヲ減ス

第六十三號 一月三十一日

大坂裁判所檢事局

(第七百五十七) 同囚ノ縊死セントスルヲ阻救シタル懲役人特典減等伺

大坂府下第七大區二小區寺岡村

農柳瀬菊松弟大坂ノ丑松專

當時懲役人

明治四年六月十五日大坂裁判所ニ於テ竊盜犯ノ科

ニ依リ懲役十年 明治八年八月廿五日同所ニ於テ

柳瀬 丑松

同囚小澤理兵衛ヲ嘲ル科ニ依リ加役一十日明治十

年十二月三日同所ニ於テ同囚下村甚藏ヲ棒ヲ以テ

毆キ傷ヲ負ハスル科ニ依リ加役四十日



滋賀縣管内近江國坂田郡

長濱十一丁平民 同

明治八年十二月廿五日大坂裁判所ニ於テ竊盜ノ科 淺野 寅吉

ニ依リ懲役十年從タルヲ以テ一等ヲ減シ同七年 堺縣管内河内國澁川郡安中村

篠崎宗八方同居平民 同

明治九年二月十三日大坂裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ 篠崎 繁太郎

依リ懲役十年首從ノ罪并發スルヲ以テ本罪一等ヲ

減シ同七年

右三名ノ者共明治十年十月五日懲治監入無籍留吉首縊致シ絶命ニ及ハントスルヲ

救護致シ功勞アル者ニ付特典ヲ以テ本罪上一等ヲ減セラレ候様致度一件書類(

略之)相添乞赦典候也

(指令) 十一年二月九日 同ノ趣懲役人柳瀬丑松外二名特典ヲ以テ各本罪ニ一

等ヲ減ス

第六十三號 一月三十一日

(第七百五十八) 悔悟謹慎能ク獄則ヲ守ル懲役人特典減等伺 石川 縣

石川縣第十六大區坂井郡

布施田村平民懲役人

山田 太郎右衛門

右ノ者偽造私印之科ニヨリ明治四年十二月十二日懲役十年被處候處入場以來能ク

獄則ヲ守リ驅使勉勵等各囚ニ勝ル者ニ候處明治十年十二月二十日外役先ニ於テ會

テ脱檻及逃走候役囚ヲ捕獲候ニ付本罪ヨリ一等減懲役七年被處候處現令一等期限

央經過候ニ付特典ヲ以テ直チニ放免相成候様致度依テ掛員具申相添(略之)此段相

伺候也

(指令) 十一年二月十二日 上申ノ趣懲役人山田太郎右衛門特典ヲ以テ本罪ニ

一等ヲ減シ役限已ニ過クルニ由テ直チニ放免スヘシ

第六十四號 二月十三日 警 視 局

(第七百六十一) 己未決囚ノ赦典ヲ乞フ儀伺

御省指令錄ニ據ルニ己未決囚ノ赦典ヲ乞フ者は迄地方長官又ハ檢事ノ兩官ヨリ申

立一定ノ成規無之哉ニ相見候處昨年九月滋賀縣伺罪囚ノ赦典ヲ乞フハ何レ之主

務ニ候哉云々ハ檢事ノ主務ト心得可シト御指令有之依テハ已來本署ニ於テモ右御

指令ノ通相心得赦典ヲ申立可キ者アルキハ監獄署長ヨリ直ニ檢事ニ通牒候様致シ

可然哉此段相伺候也

(指令) 十一年二月十三日 伺之通

指令錄刑事

第六十四號 二月六日

埼玉縣

(第七百六十) 逃走囚ヲ取押ヘタル懲役人特典減等伺

明治十年十月十二日宣告 本縣下武藏國足立郡本鄉村平民

詐偽律余ノ文書ヲ詐爲スル科ニ依リ懲役一百日 原田次郎左衛門

五十八年九月

右之者儀當縣ニ於テ頭書之通處刑中罹病治效無之ニリ當時醫員ノ診斷ニ依リ責付中ノ者ニ有之然ル處明治九年十二月廿日強盜律ニ依リ懲役七年處刑ヲ受ケ服役中本年一月十七日逃亡シタル東京府下本所大平町二丁目七番地平民熊次郎次男伊澤幾次郎ナル者同日廿五日不圖便リ來ルヲ取押蘊輿ヲ推シテ理害ヲ辨シ逃念ヲ拋棄シテ服從ノ底意ヲ發起セシメ然ル後自己ハ褥臥ノ故ヲ以テ次男仙太郎ヲシテ押送監獄署ヘ訴出ル段卓越ノ者ト言ハサルヲ得ス惟レ特ニ他囚ヲ率勵スルノ標據タルモノニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減セラレ度別紙監獄署長七等警部川邊有道ヨリノ具申書(畧之)相添此段申請候也

(指令) 十一年二月十三日 伺ノ趣懲役人原田次郎左衛門特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減ス

第六十四號 二月九日

岐阜縣

(第七百六十六) 未決囚ノ縊死ヲ阻救シタル懲役人特典減等伺

岐阜縣美濃國多藝郡大外

羽村平民 懲役人

眞宗 犬飼兼吉

明治十一年一月廿八日決

當二十二年十一月

竊盜懲役四十日 外二名

右之者共未決檻ニ差置候中當明治十一年一月廿七日午後第二時頃未決囚美濃國羽栗郡笠松村平民間宮吉五郎ナル者牢格子貫木ニ手拭ヲ繫ケ自縊セントセシ際同囚兵庫縣播磨國第八大區一小區小姓町平民井田節一郎儀檻内ニ怪シキ物音致スヲ聞付ケ高聲ニテ呼立ルヲ前書三名直チニ驅付ケ俱ニ協力吉五郎ヲ抱揚手拭ヲ解キ卸シ遂ニ絶命ニ至ラシメサル段別紙警察官吏等申立書ノ通確實ニ付特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減セラレ候様致度本人共口供寫等(畧之)相添此段具申候也

(指令) 十一年二月十八日 伺之趣懲役人犬飼兼吉外二名特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減ス

第六十四號 二月六日

福島縣

(第七百六十七) 失火消防ニ盡カシタル懲役人特典減等伺

福島縣岩代國安達郡

明治十年八月廿九日宣告

成田村平民

懲役終身

竊盜並役場逃走等ノ科

鈴木幸右衛門  
當一月五十五年七月  
外四十名

右ノ者共去月廿日午後四時福島監獄圍外北向南裏通七丁目岡崎太左衛門所持屋敷ヨリ出火之處獄者並未決檻ハ最烟下ニシテ距離僅ニ十四五間折節北風烈シク獄署屋根ニ燃立ントセシモ右ノ者共初メ國事犯役囚等奮發消防致候ニヨリ獄署未決檻延燒ヲ免レ候義ニ有之候段別紙(略之)監獄掛ヨリ申立候通相違無之依之特典ヲ以テ各一等減相成度此段上申候也

(指令) 十一年二月十九日 上申ノ趣懲役人鈴木幸右衛門外四十名特典ヲ以テ

各本罪ニ一等ヲ減ス 但役限已ニ過クル者ハ直チニ放免スヘシ

第六十四號 二月十八日

埼玉縣

(第七百六十八) 同囚ノ逆上シテ井中ニ投身セシヲ救援セシ懲役人特典減等伺

本縣下武藏國足立郡

明治九年十二月廿六日宣告

上加村平民髮結職

懲役五年

久保 元次郎

二十八年十一月

右之者儀持兇器強盜ノ科ニ依リ頭書ノ通熊谷裁判所浦和支廳於テ處刑相成原來役

業勵勵罷在職處 本年一月四日同囚并大熊藏ナル者一時逆上致シ罪内井中ニ投身之際身ヲ不顧直ニ飛入救揚非常ノ死ニ至ラシメサル段別紙(略之)之通監獄署長川邊七等警部ヨリ申出取調候處事實相違無之囚テハ奇特ノ者ニ付特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ減度此旨上申候也

(指令) 十一年二月廿日 上申ノ趣懲役人久保元次郎特典ヲ以テ本罪ニ一等ヲ

減ス

○上告之部

第六十三號 一月十二日

福岡縣

(第七百五十二) 刑事上告拘留置中前裁判言渡ノ口數滿限ニ至リシ者ヲ出獄責付ノ

儀伺

御省明治九年(四月)第五十號御達ノ刑事上告中拘留ノ者大審院ノ判決ヲ經サル内前裁判言渡ノ日數滿期ニ至リシ者ヲ一先ツ出獄責付致ス儀ハ檢事ノ管職ニ候哉將々原裁判所ノ該掌ニ候哉若シ檢事ノ管職トスルハ本犯ノ上告ニ至テハ檢事ハ不關知ヲ以テ原裁判所ヨリ其通報(上告セシヲ通報スルヲ云)ヲ得ヘキ者ニ候哉若シ或ハ檢事ノ上告ニ係ルモノハ檢事之ヲ責付シ本犯ノ上告ニ係ルハ裁判官之ヲ責付スヘキ哉 右至急相伺候也

(指令) 十一年二月六日 伺ノ趣警察官ノ管掌ニ屬スル儀ト心得ヘシ

第六十三號 一月二十八日

群馬縣

(第七百五十四) 控訴上告規則ノ義ニ付伺

控訴上告規則第三十六條ニ檢事上告スルキハ趣意明細書及其文書類ヲ直ニ司法卿ニ遞送シ云々トアリ其文書類トハ裁判官ノ手ニアル一件書類ヲ指ス歟又ハ檢事ノ手ニアル求刑書等ノ副本ヲ指シ候哉 同規則第三十四條ニ依テ類測スルニ前條文書類トハ裁判官ノ手ニアルモノヲ指スニ似タリ若シ然ラハ檢事ヨリ裁判所へ掛合ヒ受取り遞送スル儀ニ候哉 前條趣意明細書等ハ司法卿ノ名宛ヲ以テ上等裁判所ノ檢事ヲ經由シテ司法卿ニ遞送スル歟又ハ直チニ司法卿ニ遞送スル儀ニ候哉 右差掛決シ兼候條至急御指示被下度此段相伺候也

(指令) 十一年二月七日 第一條 罪案宣告書其外該件ニ關スル一切ノ文書類

ト心得ヘシ 第二條 伺ノ通 第三條 司法卿ノ名宛ヲ以テ直チニ遞送スル儀ト心得ヘシ

第六十四號 一月二十九日

神奈川縣

(第七百五十九) 上告却下之儀申告セシ者處分方伺

爰ニ刑ノ言渡ヲ受シ者アリ該裁判ヲ不當トナシ已ニ上告セリ而シテ趣意明細書ヲ捧ケ該犯拘置中數ケ月ヲ經テ己ノ犯罪包藏セシヲ悔悟シ該裁判ニ服罪セシ旨首告セリ然ルキハ前手順ニ依リ原裁判所へ上告書却付ノ義申告爲致可然哉果シテ然ラ

ハ右首告セシ日ヲ以テ刑期起算致シ可然哉目今右様ノ者有之候ニ付至急御指令有之度此段相伺候也

(指令) 十一年二月十三日 伺之通

○求刑之部

第六十貳號 一月十日

岡山縣

(第七百三十八) 求刑ノ儀伺

廣島縣安藝國沼田郡六丁目平民

寺岡藤兵衛

右之者廣島裁判所ノ斷決ヲ不服上告シ大審院ニテ原裁判ヲ破毀シ神戸裁判所岡山支廳へ移サレタル由ヲ以テ同應ヨリ右關係書類差回求刑方照會有之右ハ原裁判破毀ニ係ルト雖モ甲檢事求刑ノ廉ハ消滅セサル儀ニ可有之哉又ハ乙地檢事へ犯罪人受取更ニ糺治ノ上求刑ス可キ哉疑義ヲ釀シ候條至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

(指令) 一月廿三日 伺ノ趣甲乙兩地檢察官ニ於テ更ニ關係スルニ不及儀ト心得ヘシ

第六十四號 二月八日

東京上等裁判所詰檢事

(第七百六十三) 死刑見込ヲ以テ送付ノ際黨類中尙ホ死刑ニ擬スヘキ者アルヲ發

指令錄刑事

見セシキ取扱手續ノ義ニ付伺

茲ニ二人以上共犯ノ者アリ地方裁判所ニ於テハ甲ヲ死刑ニ擬シ乙ヲ懲役終身ト判  
ス則一ハ當檢事ニ出シ一ハ當檢事ヲ經テ直チニ當所判事ノ批可ヲ乞フテ例トス然  
レモ甲乙共犯ナルヲ以テ乙ノ罪按テ併セテ當檢事ニ送付シ判事ニ交付テ依頼スル  
者アリ依テ當檢事ニ於テ該書類ヲ審閱スルニ乙ノ犯罪モ又死刑ニ擬スヘキ者ト考  
量ス如此場合ニ於テハ其趣旨ヲ原裁判所ニ照會シ死刑見込ノ者取扱ノ成規ニ依リ  
更テニ差出サシムヘキ哉又ハ直チニ當檢事ニ於テ死刑見込ヲ以テ求刑致シ可然哉  
現今差向キ候事件有之此段相伺候條至急御指揮候也

(指令) 十一年二月十五日 伺ノ趣直チニ求刑ス可キ義ト心得ハシ

○闘毆之部

第六十三號 一月十六日

大 審 院

(第七百五十) 爭鬪ノ末母ニ疵負セ死ニ致ス者處分ノ儀ニ付伺

甲某アリ他所ニ於テ飲酒シ酩酊歸宅セシニ家族ハ耕作ニ出テ其母留守甲某ノ酒ニ  
醉タルヲ見テ農事繁劇ノ際白晝飲酒酩酊スルハ不心得ナリト督責セシヨリ爭論ヲ  
生シ母并鉢ヲ以テ甲某ニ投付ケ甲某亦茶碗ヲ母ニ投付ケ(投付ケルモ中ラヌ)尙爭  
論ノ後母ハ鎌ヲ携ヘ蠶業ノ事ヲ爲ントスルニ甲某ハ午睡スヘクト隱宅ニ赴カント  
ス母ハ甲某ノ午睡セントスルヲ憤リ携フ所ノ鎌ヲ甲某ニ投付ルヲ(投付ルモ中ラ

ス)甲某其鎌ヲ拾取リ投ケ棄ヘク揚言スルヲ母之ヲ取還サントテ立掛リ甲某ハ  
渡スマシト右鎌ヲ互ニ捻合フ際不圖母ノ左手ヲ傷ケ出血ス甲某ハ母ノ疵ヲ裏ニ隠  
宅ニ連行キ看護セシニ酒氣未タ醒メス其側ニ熟睡セリ家族乙丙等歸來テ初テ醫ヲ  
招キ治療スルモ左手ノ傷脈管ニ掛リタルニ因テ終ニ四日ヲ經テ死去セリ  
右鎌ヲ捻合シハ初メ陶器ヲ互ニ投合フヨリ起リシ闘毆中ノ事ニ付改定律例第二百  
二十八條祖父母父母ヲ毆チ死ニ至ル者ニ依リ論ス可キ哉又ハ鎌ヲ捻合ヒシハ再ヒ  
母ノ投付ノヲ避ルニ出シテ故ニ母ノ死セシトハ過失殺ヲ以テ論シ可然哉相伺候  
(指令) 十一年二月四日 伺ノ趣改定律例第二百二十八條子孫祖父母父母ヲ毆  
チ死ニ至ル者ニ依テ論シ酌減シテ罪ヲ科スル儀ト可心得事

○賊盜之部

第六十四號 一月二十九日

松 江 裁 判 所

(第七百六十四) 竊盜得財未得財ノ儀及其犯人拒捕之儀ニ付伺

第一條 竊盜得財未得財ノ實況於テハ法律ニ正例相見ヘス候處器物錢帛ノ類ハ盜  
所ヲ離シ珠玉貨幣ノ類ハ奥ノ間ニテ竊取シ表ノ間或ハ昇降所ニ移徙シ珠玉貨幣ノ  
類ハ盜所ト雖モ竊取シテ已ノ手又ハ懷ニ入ル、如キモノヲ指シ縱令事主ニ覺知セ  
ラル、爲メ該器物錢帛ハ表ノ間又ハ昇降所ニ投棄シ珠玉貨幣ハ盜所ニ投棄シ一  
ト間ノ西ノ隅ニテ盜ミ東ノ隅ニ投棄スル如キヲ云フ)逃走スル際事主ニ捕得セラ

指令錄刑事

ル、モノ皆得財トナシ可然哉本省日誌(八年六十五號)白川縣伺第一條但書ニ盜所ニ在ルトハ仮令ハ一ト間ニアル器物ヲ盜ミ仍其間ニ在テ見咎ラル、モノヲ云フヘキ歟然レハ若シ之ヲ次ノ間ニ移シ見咎ラル、モノハ即チ盜所ヲ離ルモノト可申哉又第二條中珠玉寶貨等ハ其物輕微體テ藏匿シ易シ故ニ盜所ニ在リト雖モ既ニ手ニ入ルレハ即チ之レヲ得財ト爲シ云々ニ第一條第二條但書共同ノ通ニ御指令相成リ其性質前項ノ罪犯ト同一ナルカ如ク存シ候間右御指令ヲ援引比附シ可然哉

第二條 賊盜律竊盜條第二項後半ニ主覺逐スルニ財ヲ棄テ逃走スルヲ追逐シ因テ捕ヲ拒ク者ハ罪人拒捕律ニ依ルトアルハ譬ヘハ器物珠玉等ヲ竊取シ盜所ニ於テ覺逐セラレ其場ニ財物ヲ投棄シ逃走スル際拒捕スレハ未得財ノ本罪ニ二等ヲ加ヘ其既ニ盜所ヲ離レ戶外又ハ門外ニ財物ヲ持行タル後覺逐スル場ニ於テ財ヲ棄テ拒捕スルハ得罪ノ本罪ニ二等ヲ加ヘ可然哉

(指令) 十一年二月十八日 總テ伺之通

第六十三號 一月十一日 山口縣

(第七百四十六) 置贓物處分ノ儀ニ付伺

盜賊入りシ跡ニ捨置ク物品ハ一ケ年ヲ待テ其賊捕ニ就カス事主モ亦分明ナラサルキハ官沒ス可キ旨警視廳其他ノ伺ヘ御指令ノ廉御省日誌中ニ散見候處右官沒ノ物

品ハ地方官於テ公賣ノ取計致シ該代金御省へ上納致スヘキ筋ナル歟又ハ遺失物取扱規則中官ニ没スル物品同様取計可然哉

(指令) 十一年二月二日 伺ノ趣物品盜贓ナレハ公賣シテ代金ヲ當省へ上納スル儀ト心得ヘシ

第六十四號 一月二十四日 高知縣

(第七百六十二) 官林ノ樹木ヲ誤伐スル者並ニ贓物追徵處分ノ儀ニ付伺

第一條 爰ニ自己山林伐木ノ際境界ヲ誤リ官林ノ樹木ヲ代採スル者アリ右ハ畢竟疎漏ニシテ境界ヲ誤ルヨリ官林ヲ伐採スルニ出ルモノナレハ棄毀器物稼穡律官ノ樹木ヲ誤毀スル者ヲ以テ論シテ可ナラン歟將又明治七年御省日誌第百十一號三丁滋賀縣伺第四條御指令ノ通り呵責ニ處シ可然哉 第二條 明治十年御省刑事指令錄第四十七號中福島縣ヨリ贓物追徵方云々伺御指令ニ盜犯捕ニ就カス其公商公買ニヨラサル事狀判然タルニ於テハ警察官ヨリ直ニ物主ニ還付スルヲ得若シ後ニ捕獲スレハ其品目並ニ代價記ヲ始末書ト共ニ裁判所ニ送付スヘシトアリ此ニ由テ之ヲ觀レハ其公商公買ニヨラス物品買取轉賣シ幾數人(何レモ公商買ニアラス)ノ手ヲ轉輾スト雖モ警察官其物品現在ノ所ヨリ追徵シ直ニ物主ニ還付シ其價ハ尙轉償セシメ而シテ其轉償能ハサルモノハ終ニ資力限り追徵ノ處分等マテナシ候様相見ヘ果シテ然ラハ聊カ權限外ニ陟リ候哉ニモ考ラレ疑議ヲ生シ候ニ付差掛リシモ

指令盜刑事

ノ數十件閣キ相同候條至急御指揮候也 但盜犯捕ニ就キ求刑ノ際死去シ然ルニ其得ル所ノ贓ハ幾分カ本犯費用シ又ハ轉賣シタルモアリテ其買取者ハ固ヨリ公商買ニヨラス且其品物ハ現存シ如此場合ノ時ハ本犯死去スト雖モ最初ヨリ就捕ナラサル者トハ異ナルヲ以テ無論刑事裁判官ニ於テ追徵還給法ヲ盡ス儀ト相心得可然哉

(指令) 十一年二月十四日 第一條 呵責ニ處ス 第二條 轉賣者其價ヲ費用スレハ本犯ヲ除ク外資力限り追徵スルニ及ハス 但書伺ノ通

○詐欺之部

第六十貳號 十二月六日

大 審 院

(第七百四十二) 官文書及ヒ餘ノ文書ノ儀ニ付伺

詐偽律詐爲官文書條省臺寮司府藩縣ノ文書トアリ然ルニ臺寮司ノ内獨リ式部寮ノニ存シ其他ハ總テ廢セラレ因テ現今ニ在テハ院省使府藩縣ノ文書ハ即チ省臺寮司府藩縣ノ文書ト同一ノ權衡ナル可ク而シテ餘ノ文書トアルハ官院省使府藩縣ニ附屬スル館局等種々ノ名稱アル各衙并ニ某課某掛等ノ文書及ヒ一職一吏ノ名ヲ以テ行フ區戸長等ニ至ル迄ノ文書ヲ指スモノナルヤ果シテ然ラハ各上等裁判所地方裁判所并支廳ノ文書ハ府縣文書ニ比シ區裁判所文書ハ餘ノ文書ニ比シ可然乎

(指令) 一月廿六日 伺ノ通

第六十三號 十年十二月廿八日

橫 濱 裁 判 所

(第七百五十三) 著書ヲ他人ニ販賣シ尙詐テ板權免許ヲ得タル者處分之儀ニ

付伺

爰ニ圖書ヲ著作シ曾テ出版免許ヲ受タル後之レヲ他人ニ販賣セシテ詐テ己レノ所有トナシ尙ホ板權免許ヲ得タル者出版條例罰則中正條無之己ニ正條無之上ハ其情狀惡ム可キモ不問ニ於テ可ナランカ其例規ノ不備不足ナルヲ以テ定律ニ依リ處斷スルハ允當ナラサル様思考致シ候條相同申候

(指令) 十一年二月七日 伺ノ趣出版條例罰則中明條ナシト雖モ其情狀惡ムヘクシテ不問ニ置ヘカラサル者ト見込ムキハ刑律ニ問擬スルモ妨ケナキ儀ト心得ヘシ

○逃亡之部

第六十貳號 一月廿一日

大 審 院

(第七百四十五) 懲役一年以上ノ囚人再ヒ逃走スル者處分ノ儀ニ付伺

改定律例第二百九十八條ニ懲役一年以上ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ絞改テ懲役終身トアリテ棒鎖二日ヲ科スルノ正文ナキニ依リ右再逃ノ者ハ止テ懲役終身ニ處シ然ル可キ乎然レモ同律例第二百九十九條ニ懲役百日以下ノ囚人再ヒ逃走スル者ハ棒鎖二日更ニ懲役一年ニ入ルトアリテ此法律ノ意ヲ推究セハ一年以上ノ囚人再逃スルモノモ棒鎖二日ヲ科セサル可カラスト雖モ律例ニ正文ナキモノヲ加ヘ科スルハ如

指令錄刑事

何可有之哉

(指令) 一月廿八日 伺ノ趣棒鎖二日ノ上懲役終身ニ處スル儀ト可心得事

第六十四號 二月六日 東京上等裁判所

(第七百六十五) 懲役人獄衣ヲ着テ逃走シタル者處分方伺

明治七年本省日誌第二百二十二號京都裁判所伺御指令ニ獄衣ヲ着テ脱逃其衣ヲ賣却費用スル者常人盜ヲ以テ論スヘシト有之候處右ハ賣却費用スル者ニ限リ其罪ヲ論スルカ將ヲ賣却スルト否トニ別ナク概シテ其罪ヲ問フカ若シ或ハ概シテ其罪ヲ問カ如キハ懲役人逃ハ毎ニ常人盜ヲ付帶スルノ不都合アリ只ニ付帶スルノ不都合アルノミニ非ス盜犯ノ前科アル者獄衣ノ爲メニ無意ニシテ重罪ノ域ニ入ルハ甚ダ苛酷ヲ覺ユルニ依リ其賣却費用スル等ノ爲メニスル處アル者ヲ除クノ外不問ニ置キ可然ヤ此段相伺候也

(指令) 十一年二月十八日 伺之通

○斷獄之部

第六十二號 一月十二日

京都裁判所檢事

(第七百三十九) 欠席裁判ノ儀ニ付伺

罪犯糺治ノ上公訴ニ及ヒ裁判官於テモ猶取調口供甘結摺印相濟ニ實斷ニ處スヘキモノ疾病ニ罹リ廢篤疾ニ到ラスト雖モ長症ト確認スル時ハ夫カ爲裁判遲延他ノ違

累等迷惑不勤事ニ付親戚其他代理人ヲ呼出本犯欠席ノ儘裁判ヲ遂ケ執行ノ儀ハ全快マテ其儘在宿療養致サセ可然哉但本又若シ裁判ノ効ナキモノトモス上告又ハ具申ノ手順ニ及フヘキト可相心得哉 右爲心得相伺候間何分仰御指令候也

(指令) 一月廿三日 伺之趣宣告書ヲ本犯ノ住宅ニ達シ全癒ノ上執行スル儀ト心得ヘシ

大 審 院

第六十貳號 一月十日 (第七百四十三) 非現行賭博犯ノ儀ニ付伺

爰ニ甲アリ官司ノ差遣ト詐稱シ賭場ニ入り金錢ヲ要求セシ事發覺スルニヨリ其賭博ヲ犯セシ乙丙ヲ糺治セサレハ事情明瞭ナラサルヲ以テ乙丙ヲ糺治セシニ乙丙ニ於テ自ラ賭博ヲ犯セシコトヲ供出スルニヨリ裁判官ニ於テ雜犯律賭博條ニ照シ斷決シタリ然ルニ賭博罪ノ現行犯ハ其罪ヲ問ヒ非現行犯ハ其罪ヲ問ハサルノ明文ナキニ依リ乙丙カ如キ既ニ糺治ヲ經其罪ニ服スルニ至テハ其罪ヲ問フヘキ者ナル哉又ハ非現行ノ賭博犯ハ假令其罪ニ服シタルモ都テ不問ニ置ヘキ者ナル哉

(指令) 一月廿八日 伺ノ趣糺治シテ罪ニ服スルト雖モ非現行ニ係レハ不問ニ措ク儀ト心得ヘシ

○賠償之部 第六十貳號 一月十二日

山 口 縣

指令 刑事



(第七百四十四) 戸長區入費金ヲ盜費シ逃亡スル者ノ賠償ノ儀ニ付伺  
 管下第十二大區十小區妻崎開作居住平民西村豐助儀同小區戸長申付置候處區民ニ  
 リ課出セシ區入費小學費等ノ内五百八十四圓余區民ノ協議ヲ以テ構成セシ積金ノ  
 内六十三圓余縣廳ヨリ下渡シタル土工費ノ内十四圓合計六百六十一圓余盜費セシ  
 未昨明治十年五月十一日大區扱處へ出頭ノ旨申置キ立出候儘行衛不相分然ルニ公  
 金引込ニ其他負債相當ニ辨償ノ手段無之逃亡云々母妻子等へ遺シ置ク書面ヲ見出  
 シ届出候ニ付取調サセ候處家人親戚等ニ於テ右遺書ハ豐助ノ直筆ナルヲ證明シ逃  
 亡タルヲ判然候就テハ遺留ノ財産及ヒ他へ貸附金等ヲ以テ右盜費セシ金員賠償方取  
 計ノ義裁判官へ照會ニ及ヒ可然哉果シテ賠償方照會ニ及ヒ可然儀ニ候ハ、若實力  
 限リ追徴ノ金員右盜費セシ額ニ不足スルモハ如何相成筋ニ有之候哉相伺候

(指令) 一月廿八日 伺ノ趣盜費セシ證據明白ナレハ其相續人ニ對シ要償ノ訴  
 ナ爲ヌテ得ヘシ尤身代限處分ノ上仍ホ賠償ノ數ニ不足スルモハ其區ノ損失タル儀  
 ト心得ヘシ

○費用給與之部

第六十貳號 十一月十日

神奈川縣

(第七百三十四) 各國領事廳へ刑事証人買出候節旅費給與方伺

爰ニ犯罪アル外國人甲ナル者(御國人ニ對シタル犯罪ニアラス)其國領事ニテ審問

ノ節証據ノ爲メ東京府下人民乙ヲ要スルニ付領事ヨリ本廳へ依頼有之乙ヲシテ領  
 事廳へ出頭セシメタリ該旅費ノ儀該領事へ論求セハ反對スル事件有之節此方ヨリ  
 彼ニ對シ旅費等償却可致道理ニ付刑事証人旅費給與規則ニ照準本廳ヨリ乙へ給與  
 致シ置キ可申哉將タ領事へ請求可致哉右ハ本廳ト領事トノ間ニ止マラス刑事裁判  
 所ノ關係モ有之儀ニ付心得方御指揮ヲ仰キ候也

(指令) 一月十九日 伺ノ趣該旅費ハ領事へ請求スヘキ儀ト心得ヘシ

第六十貳號

十二月二十日

松江裁判所

(第七百三十七) 疾病診査變死解剖証據鑑定費額資給方ノ儀伺

第一條 檢事アラサル地方警察ノ糾問ヲ求メシ罪犯及ヒ証據人ノ疾病有之節時宜  
 ニヨリ糾問判事於テ直チニ醫師ヲシテ之ヲ診斷シ或ハ變死者ノ屍一部ヲ解剖セシ  
 メ其他技藝人ニ兇器物質ノ類ヲ鑑定セシムル給料等ハ其地方警察費ヨリ資出ス可  
 キ儀ト心得可然哉 第二條 檢事アラサル地方警察ヨリ求刑スル罪犯廢篤疾等  
 裁判官ニ於テ其見込ヲ異ニシ醫師ヲシテ之ヲ診斷シ或ハ技藝人ニ兇器物質ノ類ヲ  
 鑑定セシムル給料等ハ審理上ニ出ルヲ以テ法衙ヨリ資出ス可キ儀ト心得可然哉  
 第三條 第二項ノ内法衙ニ於テ資給ス可キモノ之レアリトセハ診斷解剖鑑定給料  
 資出ノ金額ヲモ係テ御指示有之度候 右三條相伺候迅速御裁下仰キ候也

(指令) 一月廿三日 第一條裁判所ヨリ支給スル儀ト心得ヘシ ○第三條伺ノ

通 ○第三條糾問並ニ公判ニ於テ醫師又ハ鑑定人ヲ要スルキハ裁判所ヨリ其費用ヲ支給シ若シ司法警察上罪証ヲ得ノカ爲メ之ヲ要スルキハ裁判所ヨリ支給スルニ不及儀ト心得ヘシ

○違註罪之部

第六十貳號 一月二十五日

東京裁判所

(第七百四十二) 違式註違ノ犯人不服ヲ唱ヘテ處分ヲ拒ム者ノ儀ニ付伺  
地方廳權内ニアル違式註違ノ犯人其宣告ヲ受ケ假令不服ヲ唱其處分ヲ拒ムモ到底終決ノ者ニテ上告スルノ權ナキニ付更ニ裁判所ニ於テ違令等ノ罪ヲ問フニ及ハス必シモ該廳ニ於テハ執行セシムル方至當ノ義ト心得可然哉

(指令) 一月廿六日 伺ノ通

○犯則之部

第六十二號 一月十日

大審院

(第七百三十二) 煙草印稅犯則者處分ノ儀ニ付伺  
仕入鑑札ヲ所持セシメテ無印紙製造煙草壹玉代金五錢未滿ノ分貳千零拾六玉同五錢以上拾錢未滿ノ分七百貳拾玉總計貳千七百三拾六玉ノ代金九拾六圓貳拾錢ニテ買受ケシ者アリ右ハ明治八年第百五拾號布告煙草稅則第三則賞罰例第五條ニ仕入鑑札ヲ所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致サ、ル者ハ無印紙

製造煙草ヲ賣渡ス者ハ各脫稅高ノ二十倍宛科料可申付トアルニ照シ處分ス可キハ勿論ニ候處右脫稅高ハ煙草稅則第二則製造煙草印稅第三條製造煙草印稅割合煙草代價五錢未滿印稅壹釐五錢以上拾錢未滿印稅五釐トアルニ照シ犯則者カ買入レシ製造玉煙草總玉數貳千七百三拾六玉ノ内壹玉代價五錢未滿ノ分貳千零拾六玉ノ脫稅金貳圓壹錢六釐ト五錢以上拾錢未滿ノ分七百貳拾玉ノ脫稅金三圓六拾錢トテ合算シ金五圓六拾壹錢六釐ヲ脫稅高トナシ此貳拾倍即チ金百拾貳圓三拾貳錢ヲ科シ可然哉又ハ煙草稅則第二則製造煙草印稅第一條ニ製造煙草ハ(玉作箱詰紙包束作疊紙等)各種ノ大小斤目ニ不拘自用ノ人ハ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ從ヒ煙草印紙貼用ノ上賣出ス可キ事トアルニ照シ該犯カ買入レシ製造玉煙草總玉數貳千七百三拾六玉ノ總代金九拾六圓貳拾錢ノ十分一即チ金九圓六拾貳錢ヲ脫稅高トナシ此貳十倍金百九十貳圓四十錢ヲ科シ可然哉 ○小賣營業鑑札ヲ受ケタル上ニテ仕入鑑札ヲ受シ可キモノナルニニツナカラ受ケスシテ營業セシ爲メ無印紙製造煙草ヲ買入レタル者ハ煙草稅則第三條ニアル一ケ年營業稅ノ五倍科料ト第三則第五條ノ印紙脫稅高ノ貳拾倍科料トテ合テ可科哉又ハ無印紙ニテ製造煙草ヲ買入レタルノミニシテ未タ之ヲ自用ノ人ハ賣渡シタルニ至ラサルモノナレハ第三則第三條營業稅ノ五倍科料ハ申付ルコ及ハス單ニ第五條ノ印紙脫稅高ノ貳拾倍科料ノミ申付可然哉  
(指令) 一月十八日 第一條前半伺ノ通 ○第二條買入タル無印紙製造煙草ヲ

指令錄刑事

己ニ自用人へ賣出シタル者ナレハ前半伺ノ通未タ自用人へ賣出サ、ル片ハ後半伺ノ通

第六十三號 一月二十五日

新 潟 縣

(第七百五十一) 没収物品處分ノ儀ニ付伺

諸船舶ノ内昨明治十年第五十六號公布北海道諸產物出港稅則第十一條ニ抵觸スル場合ニ於テ稅金料ヲ追徵スルノ外猶該船鑑札面ニ過超セシ積石有之キハ同年開拓使甲第一號ニ依リ其品没収公賣ノ上開拓使へ送致スヘキ者ト差考へ同使へ照會候處沒収公賣ノ分ハ於當縣一般ノ科料等ト同様處分スヘキ旨回答有之候ニ付テハ其公賣代價ハ違註贖金ト一般新濶裁判所へ交付シ可然哉又ハ直チニ御省へ可上納哉

(指令) 十一年二月五日

直ニ當省へ納ム可シ

但使府縣限リ取設タル規則ト

雖モ罰科ニ關係スル者ハ明治六年第二百八號公布ニ依リ裁判官ニ送付シテ處分セシムル儀ト心得可シ

自第貳拾三號

至第貳拾四號



○訴訟之部

第廿四號 七月九日

東京裁判所長五等判事池田彌一

(第百八十七) 民事裁判言渡書改正ノ儀伺

民事裁判已ニ言渡ノ後ニ至リ其裁判ノ法ニ適セサル事ヲ覺知シタル場合ニ於テハ其裁判ヲ受ケタル原被告於テ未タ控訴ヲナサ、ル已前ナラハ前裁判ヲ取消更ニ改正ノ裁判言渡書ヲ下附シ可然義トハ相心得候得共爲念此段相伺候也

(指令) 十年七月十四日

伺ノ趣一旦裁判言渡ヲ爲シタル上ハ固ヨリ動カス可キ

モノニ非レハ控訴ノ前後ヲ問ハス之ヲ更改スルヲ得ス若シ其言渡ニ不服ノ者アル時ハ控告ノ道アルナリ

指令錄民事

(理)

東京裁判所伺民事裁判言渡書改正ノ儀抑裁判ノ言渡シハ一旦之レヲ下タセハ必  
ス確定不動ノモノタルヘキハ不俟言ナリ然ルニ該伺ノ言フ如ク若シ之レヲ改更  
スルコトヲ得ル者トセハ甚タ裁判ノ信用ヲ失ヒ且裁判終決ノ期ナク社會安堵ノ點  
ニ關涉スル者ナリ是レ裁判言渡ハ同裁判所ニ於テ更改スルヲ許サ、ル一般ノ通  
理ナリ又控訴上告ノ法アリテ之レヲ更改スルノ道アルナリ

第廿四號 七月四日

水戸裁判所長判事山田信道

(第百八十九) 借主身代限後請人ニ對スル詞訟權限儀伺

從前借主身代限後請人ニ對スル訴訟ヲ追訴ト稱シ本件ニ合接シテ受理シ來レリ然  
ルニ本年本省指令錄民事部第十八號松本裁判所伺御指令ノ通身代限執行未濟中ノ  
者ヲ審理表既裁欄内ニ記入スル賊ハ其追訴ノ習慣ヲ改メサルハ表ト實際ト齟齬ヲ  
生シ不都合ニ付右御指令ノ趣旨ニ基キ追訴ノ名ヲ廢シ本件ト分離シ之ヲ各別ニ受  
理スヘキハ勿論ナレ共追訴ヲ新件ト爲ス時ハ始メ區裁判所ニテ借主ノ身代限ヲ受  
ケ更ニ請人ニ對シ出訴ノ時訴訟入費利息等相當ニ其金額區裁判所ノ權限ヲ超ル時  
ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ其裁判所ニテ受理スルヲ得サル可シ然レ共請人ハ借主ニ連  
續シテ義務ヲ盡ス者ナレハ前後之ヲ別應ニ於テ受理シ候テハ審理上不都合ヲ釀ス  
ノミナラス人民亦大ニ不便ヲ生シ候ニ付借主身代限後請人ニ對スル件ニ限り縱令

權限ヲ侵越スルモ官民便宜ノ爲メ原裁判所ニテ受理仕樣致度此段相伺候也

(指令) 十年七月十九日 伺ノ趣負債者身代限ノ後請人ニ對スル訴訟而已ナラス甲債  
主ノ訴ニ因リ區裁判所ニ於テ身代限ノ處分ニ及ヒタル後請人ニ對スル訴訟而已ナ  
ラス甲債主ノ訴ニ因リ區裁判所權外ノ金額ヲ以テ訴出ル者ト雖モ原裁判所ニ於テ  
受理スルコトヲ得可シ

(理)

水戸裁判所伺ハ其主旨前半段ニ在ルヤ後半段ニ在ルヤ文意明瞭ナラスト難  
細ニ推究スルニ疑問ノ要點ハ負債主身代限ノ後請人ニ對スル追訴權限云々ニ在  
ルカ如シ然ル時ハ過般高知裁判所へ指令ノ通負債主身代限ノ節他ノ債主區裁判  
所權外ノ金額ヲ以テ追訴スルモノアリト雖仍ホ該區裁判所ニ於テ審理スルコトヲ  
許ス況ンヤ本訴ニ附帶スル請人ニ對スル訴ハ原裁判所ニ於テ受理スルコトヲ得可  
シ

○相續法之部

第廿四號 五月十八日

名古屋裁判所長五等判事兒島惟謙

(第百八十四) 士族養子主離縁ノ儀ニ付伺

當主實子ナク親族或ハ他ヨリ養子致シ既ニ戸主ト成リタル後身持放蕩父母等ノ侍  
養ヲ欠キ又ハ卑族ノ扶助ヲナサ、ル等ヨリ一家不和ヲ生シ遂ニ尊屬及ヒ親戚連署

指令錄民事

シテ戸主ノ離縁ヲ願フ者往々有之然ルニ其故障ナク養實熟議ノ調タルハ府縣限リ離縁聞届行政ト裁判トノ權ハ熟ト不熟トニヨリ別チ來リタル處明治八年四月中別紙佐賀縣伺へ朱書ノ如ク内務省指令アリシヨリ假令戸主及ヒ實家ニ於テ故障アリ未タ承諾ナサスト雖モ養母又養祖父母養家ノ親戚連署シ縣廳へ願ヒ出ル時ハ直チニ行政官ニ離縁申付ルニ至レリ(愛知縣ノ如キ現今依之處分スル者アリ)抑如此ニシテ養實熟議相整以離縁ヲ要スル者固ヨリ行政ノ權内ナリト雖モ其戸主及ヒ實家之ヲ肯セサル等ハ即チ裁判權内ニシテ行政官ノ處斷スヘキニ非ス然ルニ今ヤ兩屬ニ亘レリ權限歸着スル所以來如何相心得可然哉別紙相添此段相伺候也

別紙 佐賀縣伺 明治八年四月

有繼士族實子ナク親族ヨリ養子致候處養父死去ノ後戸主トナリ身持放蕩養母ヲ侍養セス養母ヨリ離縁ノ儀示離致シ候チモ養子血統ノ緣故チ以離縁スルチ肯セス然ルニ不孝ノ罪チ官ニ囑シ候テハ家名ニモ關係候ニ付依テ離縁致ス旨養母ノ親戚連署願出候節申立ノ通相違無之時ハ斷然離縁申付相續ノ儀ハ養母情願ニ任セ可然哉相伺候也

別紙 内務省指令 八年四月七日

書面養子血統ノ緣故チ以離縁チ肯セサルモ事實一家ノ浮沉ニモ關シ養母並親族連署願出候ハ、篤ト取糾ノ上離縁ノ儀聞届不苦候事

(理) 太政官へ上稟

告達若クハ裁令ニ據リ事情ヲ聞糺シ離縁ヲ聽許スルハ現今ノ體裁姑ク地方官ノ職任トスルモ甲之ヲ要求シ乙之ヲ肯セス双方相争ノ處分ニ至テハ之ヲ裁判所ニ訴へ裁判官ノ裁判ニ任スヘキヲ當然ノコトナラン

別紙名古屋裁判所伺援引スル所ノ内務省指令ニ據ル時ハ養子ノ戸主縱令之ヲ承諾セサルモ放蕩一家ノ浮沉ニ管スルノ事實アリテ養母親族連署シテ願出ツルニ於テハ事情聞糺ノ上離縁ヲ聞届クルコト地方官ノ權内ニ委スルモノ、如シ然ル時ハ離縁ノ際双方熟議整ハス如何ナル紛争ヲ生スルモ地方官之ヲ裁制處分スヘカ是レ決シテ其理ナキナリ抑モ離縁ノ争ヒモ即チ人民私權上ノ争ニシテ他ノ普通ノ争訟ト異ナル所ナシ然ルチ之レノミ地方官ノ權任トスル時ハ裁判所ノ權限ニ抵觸シ如何ニモ不都合ナラン現今既ニ各地方裁判所ヲ設ケラレタル上ハ右等ノ裁判ハ勿論裁判所ノ權任ナリト思考セリ因テ左ノ通(略之)指令可及ト存候得共一應爲念仰高裁候條至急御裁可相成度候也

明治十年五月六日

司法卿大木喬任代理

二等判事玉乃世履

右大臣岩倉具視殿

右裁可ノ上左ノ通指令ス

指令録民事

(指令) 十年七月四日 伺ノ趣養實熟議整ハサル争訟ヲ裁制スルハ固ヨリ裁判所ノ權ナリト心得ヘシ

○証券証書之部

第廿四號 六月廿五日

高知縣權令小池國武

(第百八十五) 本年第四十四號公布之儀ニ付伺

本年第四十四號公布相成候ニ就テハ自今人民相互ノ諸證書面ニ爪印或ハ花押等相用候分并ニ商人買販ノ品代金等借主ノ捺印無之共裁判上有効ニ歸スル而已ナラズ

渾テ實印無之證書ト雖ヒ取上ケ裁判ニ可相成哉至急何分ノ御指令被下度候也

(指令) 十年七月十一日 伺ノ通 但有効ニ歸スルト否トハ審理ノ上ニアラサ

レハ判決スヘカラサル儀ト心得可シ

(太政官第四十四號十年五月十八日)明治四年六月十二日商人買販品代金滞リノ布

告并同六年(七月)第二百三十九號布告自今相廢候條此旨布告候事

愛知縣令安場保和

第廿四號 六月二十八日 (第百八十六) 証券界紙并訴訟用郵紙書損等ノ儀伺

証券界紙並訴訟用郵紙書損ノ廉ハ改削塗抹シ實印押捺其儘相用不苦哉又ハ改削塗抹ノ儀ハ一切不相成儀ニ候哉即今伺出候者有之候間至急御指揮被下度候也

(指令) 十年七月十一日 伺ノ趣書損ノ廉ハ改削塗抹實印押捺其儘相用不苦候事

○書入質入之部

東京裁判所

第廿三號 六月十九日 (第百八十一) 契約履行之儀伺

爰ニ甲兼テ所有ノ地面何ケ所ヲ乙へ賣却代金全額ヲ受取地券ハ不日書換へ可渡旨相約置タル處折節他ノ債主數口ヨリ督促セラル、場合右地所未々所有ノ權乙ニ移テサルヲ幸トシ書換ノ約ハ破談ニ及ヒ該地所ハ糶賣ニ屬シ其代金各債主へ配當セント欲ス乙ハ之ヲ承諾セス此ノ如キモノハ乙ハ契約履行セシムルノ權利アリ甲ニ於テハ地券ヲ可渡義務アレハ輒ク前約ヲ破談スルハ不道法ト心得可然哉又ハ明治八年第百六號公布ニ依レハ該地所々有ノ權乙ニ移テサルニ付其取扱ハ全ク甲ノ自由ニ任ス可キ筈ナルユへ更ニ糶賣代金ヲ以テ乙其他ノ各債主へ配分スル方相當ナル歟此段相伺候也

(指令) 十年六月廿九日 伺ノ趣賣買ノ契約既ニ成リ代金全額ヲモ授受シタルモノ固ヨリ甲乙契約ノ通履行セシム可キハ勿論ノ儀ト心得可シ

○地所操戻之部

第二十三號 四月十二日

福島裁判所

(第百七十六) 初審裁判以前上等裁判所ニ於テ裁判相成候儀伺

先般福島縣裁判事務引繼ヲ受候民事現在件數ノ内福島縣第一區信夫郡中野村佐藤

飯太郎ヨリ福島縣第一區信夫郡上飯坂村岩澤良貞へ係ル質地取戻之訴別紙甲印演說書相添引受候ニ付着手ノ順序ヲ逐ヒ初審裁判ニ及フヘキ心得ノ處別紙乙印ノ通宮城上等裁判所ニ於テ裁判相成リシ旨通知有之因テ丙印ノ通同所へ問合候處丁印之通り廻答相成茲ニ於テ訴答文例第二十條末項ノ趣旨疑義ニ涉リ候故本年三月六日附テ以テ五ヶ條ノ疑義相伺候處文例第二十條末項裁判以前ノ場合ニ於テ空亦上告スルコトヲ聽サスト雖モ若シ裁判官曲庇壓制等之レアル時大審院章程第五條ニ依リ刑事告訴ヲナスハ此限ニ在ラサル事ト御指令(第十九號第百十六)相成之レニ因テ是ヲ見レハ前記宮城上等裁判所ニ於テ裁判ヲナシタルハ所謂裁判所管理ノ權限ヲ越ヘタルモノナラン然ラハ則別紙乙印ノ如ク通知ヲ受クヘキ筋無之ニ付之レテ還戻シ該裁判ニ不關當廳ノ裁判ヲ結了スヘキモノ手ト存候得共實際ニ於テ頗ル不都合之儀ニテ當否決兼候間差向當廳ノ現在件處分方ニ差支候條可然御指令被下度候也 但本條若當廳ノ裁判ヲ結了スルニ及ハサル筋合ノモノナルハ此儘取消スヘキハ勿論ニ候得共裁判表中掲上スヘキ標目無之ニ付別紙ニ實際ノ概略ヲ記載シ御届ニ及ヒ可然哉此段添テ相伺候

甲印 民事事件數ノ内明治八年第四百十一號演舌書九年十二月該件吟味詰ノ上口供及ヒ裁判申渡書ヲ製シ既ニ原告呼出シ口供へ調印申付候處被告岩澤良貞ナル者口供上異存ナシト雖モ印形失念ニ付歸村ノ上押印可致旨相答置

其儘控訴ニ及ヒタル處九月廿三日付テ以テ曲庇壓制ニ付控訴ニ及ヒタル間右關係之書類可差出旨宮城上等裁判所ヨリ掛合有之タルニ依リ中止致置候事

乙印 十年二月九日 福島縣第一大區信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ同縣同大區同郡上飯坂村平民岩澤良貞へ掛貸地取戻シノ訴福島縣裁判所へ及出訴處被告岩澤良貞福島縣舊裁判所ニ於テ結局ノ裁判難受旨ニテ佐藤飯太郎へ掛リ致控訴ニ付控訴之理由審明ノ上之ヲ受理シ別紙之通及裁判候條此段及御通知候也

宮城上等裁判所

福島縣裁判所長宛

二白初審書類致返却候也

裁判言渡按

福島縣第一大區岩代國信夫郡

上飯坂村三百十三番地平民

岩澤良貞

福島縣第一大區岩代國信夫郡

中野村百三十番地平民

佐藤飯太郎

原告岩澤良貞ニ於テ被告佐藤飯太郎ノ質地ナリトテ取戻ヲ求ムル字梅津屋敷ノ畑

指令錄民事

地ハ去ル慶應二年四月中佐藤民之助ハ七拾圓ノ金員ヲ渡シ買受ケシモノニシテ第一號証書十ヶ年賃地ノ明文ハ當時地所賣買ノ禁令アルヲ以テ表面ノ約定ノミニ有之依テ公租等モ總テ自分相納來ル所其後民之助死跡相續人松雄義失踪イタシ且地券改正ノ節モ其入費ヲ納メ地券狀ノ下付ヲ受ケタレハ全ク其貞所有ノ土地ニシテ佐藤飯太郎ヨリ讓リ地或ハ賃地ナリトテ取戻シノ訴ヲ受ケヘキ理ナシ而シテ該訴ハ飯太郎原告トナリ福島縣へ訴出追々審問中返地可致旨嚴シク論達ヲ蒙リタレ共前文ノ理由ヲ開陳シ承服致サ、リシニ兩度迄拘留ヲ受ケ且自分ノ意ニ應セサル口供ノ下書ヲ示シ捺印ヲ促サル、等何分結局ノ裁判ヲ仰ク能ハス不得已其旨届出控訴及ヒタル旨陳述セリ

一被告佐藤飯太郎ニ於テ原告所持スル証書ノ如ク慶應二年ヨリ明治八年迄ノ質地ニシテ決シテ民之助ヨリ賣渡シタル儀ニ無之自分ハ三十五圓ヲ以テ買受タル地ナレハ明治八年迄ノ期限内ハ七十五圓ノ金ヲ償ヒ受返スノ權理アリト陳述ス而シテ福島縣審問ノ答辨ヲ見ルニ明治九年四月十四日原告本人不參ニ付巡查ヲシテ拘引セシメ當日拘當十五日ハ主任官外事件相嵩取調ヲサス十七日一應取糺口供ノ下書下ケ渡ス云々夫レ民事上ノ拘留ハ以前ニテモ有間敷等ナレモ自今堅ク被禁旨明治九年一月九日司法卿ノ布達アリシニ既ニ十四日ニ拘引シ拘當ナシキタル旨警察吏ヨリ通知アレハ速ニ不參ノ廉取糺スヘキニ其儀ナク十七日放免セシモ不參ノ

處斷ナシタルニ非ス左スレハ警察吏へ拘引相違シ其拘引へ届ケテ受ケタレハ其日ヨリ民事上拘留ト認サルヲ得テ依テ訴答文例二十條末項ニヨリ之ヲ受理シ審理ヲ遂ケ判決スル左條ノ如シ

第一條 原告岩澤良貞ニ於テ論地字梅津屋敷ハ民之助ヨリ讓リ受ケシテ當時禁令ナルヲ以テ質地ノ証書取置シ旨陳述スルト雖モ第一號証書ニ對シ申分不相立候事

第二條 原告岩澤良貞ノ所持スル地券狀ハ福島縣下第一區村役人地券調主任ニ於テ地租差出者ノ名ニ改ムヘキ事ト誤認シ下付セシナリト申立タレ共誤認ニヨリ至當ノ取消アラサル迄ハ良貞ノ地券ナリト認メ候事

第三條 被告佐藤飯太郎ニ於テ明治六年中佐藤民之助ヨリ該地ヲ買受ケタリト申立レ共明治八年六月十八日公布百六號ノ如ク地券申受ケサレハ賣買ノ効ナキニヨリ其契約ヲ以テ直チニ岩澤良貞ニ對シ地券ヲ取返ノ權理無之候事

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却致スヘシ

丙印 十年二月十四日

過ル九日附テ以テ福島縣第一區信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ同縣同區同郡上飯坂村平民岩澤良貞へ掛ル質地取戻之訴福島縣舊裁判所へ及出訴處被告岩澤良貞福島縣舊裁判所ニ於テ結局ノ裁判難受旨ニテ佐藤飯太郎へ掛リ致控訴候ニ付理由御審明ノ上御裁判相成候段裁判言渡書寫ヲ以テ御通知ノ趣致了知候然ル處右一件

指令錄民事



ハ福島縣舊裁判所ヨリ別紙ノ如ク演說書相添現在件數ニテ當廳へ引繼相成候故貴廳御處分濟之上ハ至當ノ裁判及フヘク心得ノ處前記貴廳ニ於テ既ニ御裁判相成シ上ハ當廳ノ現在件ハ溯テ明治九年九月七日、取調上不服ニ付控訴スヘキ旨届出シ日ナリ控訴ノ部ニ組込マサルヲ得ス然ルニ初審裁判以前ノモノニ付控訴ノ名義ヲ下クシ該件ノ局ノ結フモ適當ナラサル様被相考故ニ當廳ノ現在件處分方ニ付感ヲ生シ候間貴廳ニ於テ御裁判相成候旨趣爲心得及御問合候條可然御回答相成度候也

宮城上等裁判所宛

福島裁判所長

二白初審書類御返却相成正ニ落手候也

民事事件數ノ内明治八年第四百十一號演舌書 九年十二月

該件吟味詰ノ上口供及ヒ裁判申渡書ヲ製シ既ニ原被告呼出シ口供へ調印申付候處被告岩澤良貞ナル者口供上異存ナシト雖印形失念ニ付歸村ノ上押印可致旨相答置其儘控訴ニ及ヒタル處九月廿三日付ヲ以テ曲庇壓制ニ付控訴ニ及ヒタル間右關係之書類可差出旨宮城上等裁判所ヨリ掛合之ノ有リタルニ依リ中止致置候事

丁印

十年二月十九日

福島縣下岩澤良貞ヨリ同縣下佐藤飯太郎へ對フル質地爭訟昨明治九年現在件御處分上ニ付裁判之旨趣御問合ニ候處右ハ過日差廻候裁許狀寫之通ニ候得共尙見込書

寫及送致候條右ニテ御承知相成度候

一福島縣中屬永井秀考ヨリ差出候演說書一少シ相違之様相心得候則別紙同縣回答書相廻シ候 右及御答候也

福島裁判所長宛

宮城上等裁判所

別紙

當縣下岩代國信夫郡中野村平民佐藤飯太郎ヨリ上飯坂村岩澤良貞へ係ル質地取戻審理中ノ所曲庇壓制之處分ニ不服控訴及ヒ候趣ヲ以テ該訴ニ關スル書類并取扱ノ手續等可申立旨再應御掛合ノ趣承知致即チ御來意ノ廉々別紙ヲ以テ及御答候尤合併縣事務紛雜ノ際御報延引相成候段宜ク御領承有之度候也

宮城上等裁判所

福島縣

別紙ヲ以テ福島裁判所ヨリ相廻シ來ル手續書拔抄

佐藤飯太郎ヨリ岩澤良貞へ掛ル訴訟手續書

前畧

追々吟味中ナレ掛リ官員等モ兎角變換シ于今吟味詰ノ場合ニ遲ヒ兼ルノ處九月七日該件不服ノ廉控訴及フ可 趣キニテ當裁判所へ届書ハ前書泰之進へ託シ出發セシトテ九月九日泰之進ヨリ届書差出セシ儀ニ御座候事

指令錄民事

受理見込書

一原告ハ岩澤良貞ナリ一被告ハ佐藤飯太郎差添人佐藤松雄ナリ  
 右原告ヨリ被告ニ對スル訴訟タルヤ明治八年十一月中佐藤飯太郎原告トナリ岩澤  
 良貞ニ對シ質地取戻ノ訴ヲ福島縣ニナシタリ而シテ岩澤良貞ニ於テハ飯太郎ヨリ  
 質地取戻ノ訴ヲ受ヘキ理ナシトテ數度ノ勸解ヲ拒ミタリ然ルチ福島縣ニ於テ審  
 判中良貞ノ意ニ應セサル口供ノ下書ヲ示シ強テ之レニ捺印ヲ勸メ或ハ拘引拘留等  
 ノ所置アリ裁判ヲ受ル能ハス依テ直ニ上等裁判所ニ訴出タリト  
 一前項ノ次第ナルニ付上等裁判所ニ於テ之ヲ受理スルニハ曲庇壓制ハ訟者ノ辭柄  
 ナレハ初告裁判所ノ所爲ニ於テ果シテ曲庇ト認ムヘキモノアリヤ否ヲ審判シ而シ  
 テ訴答文例廿條末項ハ控訴上告手續頒布以後ハ消滅シタルモノカ否ヲ辨明スルヲ  
 以テ主要トス

第一條 初告裁判所ノ所爲ニ於テ曲庇ト認ムヘキモノアリヤ否ノ事  
 一此條ニ於テ原告良貞ノ陳述ノミニテハ直ニ曲庇ノ所爲ハ認メカマキテ以テ初告

裁判所ノ答辨ニ依リ左ノ件ヲ掲ケントス  
 第一 明治八年十二月中原被對審之時良貞ニ於テ陳述ヲナサス傲慢無禮ナリトテ  
 拘留申付ル云々 右ハ代言モ許サレシ時ニシテ強テ本人ノ陳述ヲ要スルニ不及且  
 ツ傲慢無禮ナラハ裁判所取締規則ニヨリ罰シテ可ナリ之ヲ罰セス拘留申付シハ當

チ得タル所爲トナシカダシ

第二 明治九年四月十四日不參ノ廉チ以テ巡查チシテ拘引セシメ當日拘留十五日  
 取糺スヘキ處土曜日ニテ主任官外事件相嵩十六日日曜日十七日一應本案ノ事件取  
 糺口供ノ下書相渡シタルノミニテ歸村申渡云々 右民事上ノ拘留ハ以前ニテモ有  
 間敷ナレモ自今堅ク被禁旨明治九年一月九日司法卿ノ布達アリテ既ニ十四日ニ拘  
 引シ拘留ナシチキタル旨警察課ヨリ通知アレハ速ニ不參ノ廉取糺スカ或ハ親類保  
 管等申付ヘキニ其儀ナク十七日放免セシモ不參ノ處斷ナシタルニ非ス左スレハ警  
 察課ニ拘引申付其拘引セシ届ヲ受ケルハ其日ヨリ民事上ニ於テ拘留セシモノト認  
 メサルチ得サルナリ

第二條 訴答文例廿條末項ハ消滅セシヤ否ノ事

一明治八年六月十日各上等裁判所同指令ニ訴答文例ニ照スヘキ事ト之アルヲ以テ  
 消滅セサルモノトス附録第一号見合セ前記ノ如ク第一條ニ於テ壓制ノ所爲アリト  
 認メ第二條ニ於テ訴答文例廿條末項ノ消滅セサルヲ知ル故ニ上等裁判所ニ於テ受  
 理スルノ理アリトス

裁判見込書

一原告ハ岩澤良貞ニシテ 初告裁判所(福島縣ノ)被告人ナリ  
 一被告ハ佐藤飯太郎ニシテ 初告裁判所(同)ノ原告人ナリ

右原告ヨリ被告ニ對スル訴訟ノ原因左ノ如シ

屋敷

上畑

一金七拾兩也

右ハ寅ヨリ亥迄十ヶ年季相定申候以上

慶應二年寅四月

質地人 民之助

良貞殿

良貞ニ於テハ當時(慶應年間)地所賣買制禁ニ付右ノ証文ハ取置タレ共其實賣買ヲナシタルモノニシテテ公租等モ自分相納且其後民之助相續人松雄儀失踪イカシ旁地券改正ノ節モ其入費ヲ納メ地券狀ハ自分名目ニテ下ケ渡シ相成タリ依テ良貞所有ノ土地ニ有之上ハ他ノモノヨリ質地或ハ讓地ナリトテ受返シノ訴ヲ受ヘキ理ナシト陳述ス

一被告人佐藤飯太郎ニ於テハ左ノ証書ヲ所持セリ

一金三拾五圓

右ハ我等所持家敷並字梅津屋敷畑ニケ所貴殿ニ賣買シ申處實正ナリ云々

明治六年酉古曆月廿三日

賣主 民之助

佐藤飯太郎殿

飯太郎ニ於テハ良貞所持スル証書ノ如ク寅年ヨリ亥年迄ノ質地ニシテ決シテ民之助ヨリ賣渡シタル儀ニ無之自分ハ三十五圓ヲ以テ買受タレハ亥年則明治八年ノ期限内ハ七十圓ノ金ヲ償ヒ受ケ返スノ權アリト陳述ス  
前記ノ如ク原因ハ原被ノ陳述ヲ掲ケタレ且又一ツノ障礙アリ則福島縣令ヨリ岩澤良貞ニ該地ノ地券ヲ下ケ渡シタル事也

右ハ該村地券取調主任ニ於テ地租金差出スモノ、名前ニ致スフト誤認シ取調タルヨリ良貞ニ地券下付セシナリト答辨アリ

前項ノ通ナルヨリ上等級裁判所ニ於テ左條ノ如ク判決ス

第一條 原告岩澤良貞ニ於テ論地字梅津屋敷ハ民之助ヨリ讓リ受シテ當時禁令アルヲ以テ質地ノ証書取置キシ旨陳述スルト雖モ第一號証書ニ對シ申分不相立候事  
第二條 原告岩澤良貞ノ所持スル地券狀ハ福島縣下第一區村役人地券調主任ニ於テ地租差出ス者ノ名ニ改ムヘキト誤認シ下付セシナリト申出タレ共誤認ニヨリ至當ノ取消アラサル迄ハ良貞ノ地券ナリト認メ候事

第三條 被告佐藤飯太郎ニ於テ明治六年中佐藤民之助ヨリ該地ヲ買受タリト申立レ共明治八年六月十八日公布百六號ノ如ク地券申受ケサレハ賣買ノ効ナキヨリ其契約ヲ以テ直チニ岩澤良貞ニ對シ地券ヲ取返ノ權理無之候事  
但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

(理) 太政官へ上申  
 夫レ初審裁判所ノ裁判言渡ナキ者ハ之ヲ上等裁判所ニ控訴スヘキ理由ナキモノニシテ上等裁判所ニ於テモ固ヨリ之ヲ受理裁判ス可ラサルナリ雖然若シ裁判官ノ曲庇壓制等ニ由テ之ヲ大審院ニ告訴シ刑事ノ裁判ヲ爲スカ如キハ又此限ニ在ラスト爲ス抑モ別紙福島裁判所伺ノ起ル因由ヲ釋スルニ福島裁判所ノ未タ建タサル前福島縣裁判所ニ詞訟ヲ爲ス者アリ其訟詞審理ノ上口書調印ヲ爲スヘキ際詞訟者ノ一人此ヲ捨テ、直チニ宮城上等裁判所ニ出テ、曲庇壓制ヲ受ケタリト控訴ス那ノ上等裁判所ニ於テハ訴答文例第廿條末項ヲ未タ消滅セサルモノトシテ直チニ之ヲ受理シ而シテ曲庇壓制ノ事ハ措テ之ヲ問ハス却テ本訴ノ民事ヲ審理裁判シテ以其旨ヲ福島縣裁判所ニ通知ス該裁判所ハ其通知ヲ得テ忽チ疑議ヲ生シ那ノ上等裁判所ト往復ノ未該伺ヲ差出スニ至レリ是レ實ニ不適當ノ處分ナリト謂ハサルヲ得ス今那ノ上等裁判所カ依由援引セシ訴答文例第二十條末項ハ且ラ消滅セサルモノト見做シテ之ヲ論セン乎曲庇壓制ノ訴ハ素ヨリ刑事ニシテ民事ノ控訴トハ部チ分チ以テ之ヲ處斷スヘキハ論ヲ俟タサルナリ果シテ然ラハ曲庇壓制ノ訴ヲ爲ス者ヲ取テ其曲庇壓制ノ罪ヲ問ハスシテ何ソ直チニ民事控訴ノ審判ヲ爲シ初審未結ノ爭訟ヲ覆審裁許スヘキノ理アラシヤ況ンヤ訴答文例第二十條末項ハ明治八年第九十一號公布ニ依リ既ニ消滅セシモノナルニ於テオヤ然ラハ則チ那ノ上等裁判所ノ爲ス所

ハ裁判所管理ノ權限ヲ越ヘタルノミナラス裁判ノ本旨ニ違フタルモノナリ果シテ然ラハ該上等裁判所ノ裁判ハ固ヨリ効シナキモノトシ福島縣裁判所ノ初審裁判ヲ結了セシメサルヲ得サルナリ因テ別紙ノ通指令可致存候ヘレ後例ニ相成ルヘキ儀ニ付爲念一應相伺御裁令ヲ請フ  
 明治十年五月七日  
 司法卿大木喬任

右大臣岩倉具視殿  
 右裁下ノ上左ノ通指令ス  
 明治十年六月十八日

(指令)  
 初審裁判ヲ結了スヘキ事  
 十年六月十八日 伺ノ趣宮城上等裁判所ノ裁判ハ無効ニ爲スヘキ者ニ付

第二十三號 五月三十日 弘前裁判所秋田支廳  
 (第百八十) 賣渡地所取戻之儀伺

田畑永代賣渡シ何時ニテモ元金ヲ以差戻スヘキ契約有之右取戻ノ訴ニ付明治五年六月福岡縣伺六年三月三重縣伺共十ヶ年過去リ候分ハ買主所有タルヘキノ御指令ニ有之候處六年十一月愛知縣伺ニハ十ヶ年内外ヲ論セシ証書面ニ依リ裁判及フヘキ事ト有之最後ノ御指令ヲ以適當ト相心得可然哉ニ候得共無年季質入スラモ拾ヶ年ヲ過去レハ流地裁判ニ及フヘシ況ンヤ賣渡シ証書ノ如キハ一層所有ノ權利ヲ重クセル者ニ有之候ヘハ無論流地裁判ニ及フヘキ道理ニ被相考候因テ愛知縣ヘノ御

指令錄民事

指令ニ拘ラス裁判及ヒ候テ可然哉此段相伺候也

(指令) 十年六月廿九日 伺ノ趣ハ永代賣渡切ノ約ナルヤ又ハ一時賣渡ニテ他日買戻ノ約ナルヤ又ハ地方ノ習慣ニヨリ証文固云々スルト雖モ其實質地ノ約ナルヤ本來契約ノ原旨何レノ點ニアルヤヲ糾明シ事實ニ基キ其効ヲ生スヘキ様審判可致事 但福岡縣及三重縣ヘノ指令ハ援引スヘキ者ニ無之候事

(理) 弘前裁判所秋田支廳伺賣渡地所取戻ノ儀ハ今一片ノ伺面ニテハ未タ其事實ヲ詳悉スルニ由ナシト雖モ田畑永代賣渡シ何時ニテモ元金ヲ以テ取戻ス云々ノ文勢ニ就テ見レハ他日買戻スヘキ條約ニテ賣渡シタル意儀ニモ被解候ヘト又或ハ疑フ從來ノ習慣ニヨリ証書面ノ文詞ニ拘ハラヌ其實全ク質入レノ約ナランカ到底當初契約ノ原旨何レノ點ニアルヤヲ吟味シテ事實ニ基キ審判セシメサレハ其原旨ノ効ヲ失フニ至ラン 但明治五年六月福岡縣伺并六年三月三重縣伺ヘノ指令ハ援引スヘキモノニアラサルナリ

〇租税之部

第二十三號 十一月二十七日

東京府

(第百七十八) 租税金各人民ニ於テ及息納候節ハ成則ニ照シ各裁判官ニ回達及候節尋常界

紙ニ相認メ可然哉ニ存候得共爲念一應相伺候

(指令) 十年十二月六日 訴訟手續ヲ履行スルニ及ハサルニ付通常ノ公文用紙

ニテ照會スヘキ事

第二十三號 八月三十日

和歌山縣

(第百七十七) 租税不納ノ者處分ノ儀伺

本年乙第六十七號大藏省布達地租徵收及ヒ租税延納處分規則中第四則第五則更正相成其四則中ニ五月一日ニ至リテ完納セサル時ハ裁判官ニ附シテ身代限ノ處分ヲ爲スヘシトアリ右ハ地方長官ノ代理トシテ租税主任官吏原告トナリテ其不納米金相當セル罫紙ヲ用ヒ訴答文例ニ准ヒ訴狀ヲ作り租税徵收ノ帳簿ヲ證據トシテ民事聽訟掛ヘ訴出民事係リヘ一般ノ訴狀ト同一ニ見做シ取扱フヘキモノト相考候得共貢訴ノ儀ハ外事件共違ヒ特別ノ御處置振モ有之候間如何相心得可然哉本廳ノ如キハ此節舊新貢額決算ノ際ニ付必ラス出訴可相成ト存候間至急御指令相成度此段相伺候也

(指令) 十年十月廿五日 租税不納ノ者處分ノ節ハ訴訟手續ヲ履行スルニ及ハ

サルニ付通常ノ公文用紙ヲ以テ照會スヘキ事

第二十三號 十一月八日

嶋根縣

(第百七十九) 身代限處分ノ者區入費取立方出訴ノ儀ニ付伺

身代限リ處分之節區入費取立ノ金額ヲ區戸長ヨリ訴出ルハ地方官ヨリ租税未納金

ヲ訴出ルト同ク訴訟用野紙ヲ用ルニ及ハサル手相伺候也

(指令) 十年十二月十八日 訴訟手續ヲ履行スルニ不及ニ付通常ノ公文用ニテ照會スヘキ事

○償金之部

第二十三號 六月十六日

長崎上等裁判所

(第百八十二)

明治九年司法省達第八十號償金違約金之儀伺

明治九年第八十號御達凡ソ償金トアルハ賣買請負金銀貸借等契約ヨリ生スル償金

ヲ指シタル者歟將タ金銀貸借ト賣買請負等トハ自カラ區別有之義歟此段相伺候也

(指令) 十年六月卅日 伺ノ趣九年當省達第八十號償金違約金ノ儀ハ金銀ヲ主ト

シテ取引スル者ニ限り候儀ト心得可シ

但金銀ヲ主トシテ取引スル者ヲ除クノ外建築請負等其他諸般ノ契約ト雖モ過當

ノモノハ得ヘキ利益ト失フタル損害ヲ照查シ其額ヲ減少スルヲ得可シ

○賠償之部

第廿四號 七月十七日

福島裁判所

(第百八十八)

盜賊賠償等ノ儀ニ付改達

盜賊賠償等ノ儀ニ付本年五月八日附指令ニ及ヒ置候處但書左ノ通改正指令候條此

旨可相心得事

但律例五十二條事主本犯ノ口供ヲ審明シ評個人ニ估計セシムルハ罪ヲ定ムル爲メノ手續ナレハ固ヨリ刑事ノ部分ト心得ヘシ

○身代限之部

第廿三號 六月八日

愛媛縣

(第百八十三)

民事身代限分配金之儀伺

動産不動産ヲ書入質ニ爲シタル貸金返辨滯リ負債主身代限リニ及ヒ其價(書入質ノ物品ヲ糶賣シタル金)負債高ニ不付テ生シ外財産ヲ以テ償却分配方ノ儀他債主數名有之共最初書入質ニセシ不足金ノ分第一番ニ元利共濟方申付其餘分アソハ他債主數名ヘ平等割賦スヘキ成規ナルヤ又ハ書入質ノ分ト雖モ其不足金高ハ尋常債主同様割賦ニ止リ先取ノ權ハ其不足金ニハ及ハサル譯ナルヤ至急御指揮被下度此段相伺候也

(指令) 十年七月二日 動不動産書入質ノ物品ヲ以償却シ尙ホ金高不足ヲ生シ身代限リ辨償スル分ハ該債主尋常債主同様割賦ニ止ル儀ト可心得事

(理)

愛媛縣伺既ニ云フ動不動産ヲ書入質ニ爲シタル貸金返辨滯リ負債主身代限(書入質ノ物品ヲ糶賣シタル金)負債高ニ不足ヲ生シ外財産ヲ以償却云々文理太重復曖昧ニ亘ルト雖モ要スルニ該伺ノ腦體タル到底書入ノ債主ハ負債者身代限外

財産ヲ以償却スルニ先取ノ權チ有スルヤ否チ伺フニ過ス依テ七年三月中新川縣  
ヨリ六年第三百六號公布ノ嚴ニ付伺出ノ指令ニ基ツケリ

訓解

- (二畫) 人家稠密 (三畫) 允當 (四畫) 允可 (五畫) 戸籍 (六畫) 中央 (七畫) 不明
- (八畫) 取締 (九畫) 犯罪 (十畫) 危險 (十一畫) 交換 (十二畫) 交付 (十三畫) 決定 (十四畫) 汚水 (十五畫) 穢
- 主任者 (十六畫) 濁 (十七畫) 行旅 (十八畫) 六項 (十九畫) 假令 (二十畫) 肝煎 (二十一畫) 困難 (二十二畫) 村落
- 位階 (二十三畫) 私通 (二十四畫) 姪娘 (二十五畫) 妨碍 (二十六畫) 忽地 (二十七畫) 明亮 (二十八畫) 委任
- 制定 (二十九畫) 制限 (三十畫) 抽籤 (三十一畫) 受領 (三十二畫) 承認 (三十三畫) 虎子 (三十四畫) 小兒 (三十五畫) 溺器
- (九畫) 染料 (十畫) 負擔 (十一畫) 傷 (十二畫) 拂辰 (十三畫) 保認 (十四畫) 保管 (十五畫) 背辰
- 海汀 (十六畫) 風習 (十七畫) 洗濯 (十八畫) 查別 (十九畫) 派遣 (二十畫) 剽 (二十一畫) 破壞 (二十二畫) 流通
- (十畫) 原籍 (十一畫) 紙屑 (十二畫) 株券 (十三畫) 抵觸 (十四畫) 剽 (十五畫) 破壞 (十六畫) 流通
- 秋隘 (十七畫) 骨腸 (十八畫) 差異 (十九畫) 財產 (二十畫) 特別 (二十一畫) 記載 (二十二畫) 書式

訓解

ウヤ ○契約ケイヤクソクソク (十一畫) 健康ケンコウウヅウヅ ○据置キョウチオキオキ ○授受ジュウヤリヤリ ○發起人モクニニ ○商量シヤウカカウウ ○  
 接近セツチカチカ ○厠房シヤウカハカハ ○區分クシハシハ ○章程シヤウキマキマリリ ○喚問クワンキキクク ○救援キウケケルル ○現數ゲンリリ  
 カ ○貧瘠ヒンマズマズ ○脱籍ダツツナツナシシ (十二畫) 剩餘シヤウアマアマ ○着色シヤクヅヅケケ ○落成ダツガガルル ○提携テイケケルル ○  
 喧嘩ケンカカヤヤ ○創立ソウトリトリタタ ○欺騙キタルタル ○將來シヤウススエエ (十三畫) 照會テヒアア ○溜滯リュウミミツツ ○  
 補理ホツツクク ○(十四畫) 慣用クワンツツカカヒヒ ○漂着ヒョウツツクク ○稱呼テイトトナナ ○過剩カアマアマ ○演習エンケケイイ ○  
 聖土アククシシツツ ○過般カゴゴロロ ○夥多コアマアマ ○蓄積チクタルタル ○運搬ウンハハココ ○輸ユチチクク ○漕水路ソウチチハハココブブ  
 (十五畫) 惘然ボウカカワワイイ ○徵收テイタタリリ ○集ツトリトリタタテテ ○緊要ケンゴゴククダダ ○滲透シココムム (十六畫) ○橫ワシシ ○  
 概略ガイママシシ ○檢按ケンララヘヘ ○漚立ソタタテテ ○壅塞ウフフササ ○櫛櫛シメメ ○點檢テンララベベルル ○激ゲキ  
 浪ナアアララ ○徽章キシシルル (十七畫) ○繁殖ハンココエエ ○轉籍テガガヘヘ ○輸送ユツツクク ○償却テイツツクク ○  
 戰役センカカヒヒ ○(十八畫) ○避遠ヘキナナカカイイ ○擴張クワオオシシヒヒ (十九畫) ○斷岸ダンキキリリ (廿六畫) 變改ヘントト  
 カヘ ○權限ケンチチダダゲゲ ○變換ヘンガガヘヘ

官准 明治十一年第五月廿三日

右文社

編輯人

青木浩藏

小石川原町  
十三番地

出版人

澤愛山

下谷練屏町  
四拾二番地

印刷

光社

湯島壹丁目  
十三番地





定價

一明治十一年五月第五號出版 但內務省日誌 司法省指令錄 并々

但每月廿三日出版

壹ヶ月分 金貳拾錢

前金三ヶ月分 金五拾五錢

半々年分 金壹圓五錢

壹ヶ年分 金貳圓

十年十一月出版

明治十年一月ヨリ七月迄合編壹冊 定價 金九拾錢

同年八月ヨリ十二月迄合編壹冊近日出版 同金七拾五錢

賣 捌

東京銀座四丁目	博 聞 社	大坂心齋橋筋唐物町	森 本 太 助
全 芝三嶋丁	山 中 市 兵 衛	全 備後町角	吉 岡 平 助
全 淺草茅丁	北 澤 伊 八	全 安土町	鹿 田 靜 七
全 馬喰町二丁目	品川金重郎支店	全 心齋橋筋壹丁目	松 村 九 兵 衛
全 石町二丁目	椀 屋 喜 兵 衛	全 京都寺町通四條上ル	田 中 治 兵 衛
全 日本橋西河岸	須 原 鐵 二	兵庫縣 西宮内町	村 松 爲 介
全 南傳馬町二丁目	有 隣 堂	全 淡路國須本	福 浦 文 造
全 本町貳丁目	柳 川 梅 次 郎	全 姫 路	山 野 長 平
全 室町三丁目	高 木 源 兵 衛	和歌山縣本町	平 井 文 助
全 通三丁目	長 野 屋 龜 七	長崎袋町四ッ角	滿 都 家 太 平 治
全 鍛冶丁	富 士 屋 金 十 郎	廣島縣中島本町	秋 田 惣 兵 衛
全 芝太神宮前	和 泉 屋 吉 兵 衛	山口縣中市町	阿 部 準 輔
全 南傳馬町壹丁目	吉 川 半 七	熊本鹽屋町	活 版 舍
全 大傳馬町貳丁目	富 田 彦 次 郎	大分縣中津新博多町	野 依 曆 三
全 京橋弓丁	擴 隆 舍	福岡縣福岡簀子町	古 野 德 三 郎
全 兩國藥研堀	報 知 社	堺縣大小路市ノ町	文 正 堂
全 神田淡路町壹丁目	太 田 榮	滋賀縣大津下大門丁	宮 協 睡 仙

書

肆

千葉縣下舟橋	品川金重郎	岐阜縣西林木丁	山岸彌平
全 千葉市場丁	全 支店	宮城縣仙台糠倉丁	中村清助
橫濱辨天通三丁目	九屋善八	山形縣七日町	八文字屋太右衛門
群馬縣高崎	文 心堂	全 鶴岡五日丁	地主 文藏
埼玉縣下浦和	博聞分社	福島縣 福島	齋藤 彦太郎
全 川越	菅間 定次郎	全 縣白川天神丁	奧村市右衛門
全 行田町	共和堂	岩手縣盛岡肴町	佐藤 庄兵衛
茨城縣水戸泉町	新報義社	石川縣下越前國竹生黒	田 善司
全 下市泉町	大内長右衛門	秋田縣横手驛	渡邊 八右衛門
埼玉縣熊谷驛	博文堂	函館	魁文社
栃木縣下宇都宮	田中庄太郎	山梨縣常盤丁	内藤 傳右衛門
静岡縣濱松連尺町	積石堂	東京通三丁目	九屋善七
三重縣津東町	淺野東助		
全伊賀上野本町通	豐住伊兵衛		
愛知縣名古屋本町	片野東四郎		
岡山縣下之町	富木徳得		
島根縣松江本町	園山喜三右衛門		

禁電子式複写

2  
1